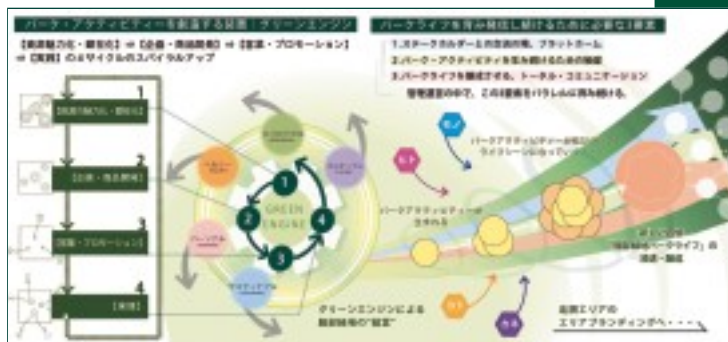


CLA journal



特集/2014年ランドスケープコンサルタンツ協会賞 (CLA 賞)

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

一般社団法人 ランドスケープコンサルタンツ協会

基本理念

我々の使命は、新たな環境認識のもとに、人と自然との関係を科学的、芸術的に把握し、環境と調和・融合した新しい秩序づくりに積極的に挑戦することによって、安全で豊かな環境の創出、すなわち、「みどりの環境文化」の形成に寄与することです。

1. ランドスケープアーキテクチャーの専門家集団

我々は、日本におけるランドスケープアーキテクチャーの思想と技術を継承し、発展させるために組織された専門家集団です。

2. 新しい技術の開発と研鑽

我々は、来たるべき21世紀の社会に対する責任を十分認識し、技術の高度化と多様化に対応した新しい技術の開発と研鑽を推進し、技術競争の時代に対応します。

3. 社会的信頼の獲得

我々は、社会的倫理観のもとに、公正な技術競争を通し、内外の要請にも応えられる自立した職能として社会的信頼を獲得すべく行動します。

4. 開かれた技術団体

我々は、内外の関連技術者との交流を通して、協調関係を積極的に推進し、多様な価値観を内包する開かれた技術団体として広く展開します。

5. 魅力ある創造的職能

我々は、経営体質の向上と安定を図ることによって、魅力ある創造的職能として広く社会から信頼されることをめざします。

平成7年5月
「新しい環境文化の創造—造園コンサルタントビジョン—」より

目 次

特集：2014年ランドスケープコンサルタンツ協会賞（CLA 賞）

■最優秀賞	
【設計部門(デザイン性)】	
新宿イーストサイドスクエア	2
【設計部門(社会性)】	
第30回全国都市緑化とっとりフェア（お花畑会場） 「水と緑のオアシスとっとり2013」	4
【調査・計画部門】	
中杉通りケヤキ並木60年と育成管理への転換	6
【マネジメント部門】	
服部緑地で地域・企業とともに作る新しい価値「パークライフ」 ～公園経営とエリアブランディングの視点に立ったパークマネジメントの実践～	8
■優秀賞	
【設計部門】	
みなとみらい21中央地区水際公園（高島水際線公園）	10
【設計部門】	
横浜市瀬谷区二ツ橋公園及び瀬谷区総合庁舎敷地外構	12
【設計部門】	
向山古墳群公園	14
【設計部門】	
国営木曽三川公園 フラワーパーク江南	16
【設計部門】	
JR 荻窪駅北口駅前広場修景整備設計	18
【調査・計画部門】	
「対馬市環境基本計画」～物語で描く島の将来環境像～	20
【マネジメント部門】	
愛・地球博記念公園「あいちサトラボ」	22
■奨励賞	
【設計部門】	
神戸震災復興記念公園（愛称：みなとのもり公園）	24
【設計部門】	
中野四季の森公園	25
【マネジメント部門】	
民間事業者が経営する農業公園のサービス向上作戦（公園管理運営の改善計画）	26
■CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし	27
■受賞技術者プロフィール	28

都市公園再生プロジェクト報告／32
「東日本大震災復興に関する 業務実績アンケート」の結果報告／34
支部活動報告／35
RLA 資格制度の改定について／40
会員名簿／42
お知らせ／45
編集後記／45

表紙の Photo Story

表紙デザインは、2014年 CLA 賞の最優秀賞4作品のメイン写真または図表をコラージュしたもので、写真2点は設計部門、左上はマネジメント部門、右下は調査・計画部門から最優秀として選出されたものです。

いずれの作品も個性的な取組みやプレゼンテーションが高く評価されたもので、こうして組合わせてみると、それぞれの作品の狙いがおぼろげながら浮かび上がるように思えます。

ランドスケープへのニーズが、どんどん新しい局面を迎えつつある中で、各技術者が暗中模索を繰り返しつつも、確実な成果をあげつつあることが窺い知れます。CLA の未来にご期待ください。



新宿イーストサイドスクエア

株式会社三菱地所設計

河合康之・塚本敦彦・松尾教徳・松井章一郎・石附 聡・佐藤琢也・姉齒景介・藤 貴彰
 有限会社ソラ・アソシエイツ 藤田久数・塩井弘一

「新宿イーストサイドスクエア」は、地下鉄東新宿駅に直結する約3.7haの大規模開発プロジェクト「新宿イーストサイド」内に位置するオフィスビルです。計画地を広域的に俯瞰すると、新宿区の「七つの都市の森」に位置付けられている戸山公園と新宿御苑のちょうど中間に位置しており、厚みと広がりのある都市の緑を実現していく上で、計画地は2つの森をつなぎ、補完する重要な役割を担っています。また、計画地の近傍を見渡すと、西側には歌舞伎町を主とした商業・業務市街地が広がり、東側には寺社や緑地等の情

緒的な街並みを残した住宅市街地が広がっており、まさに多種多様な生活文化が交錯した立地といえます。

このように、東新宿の様々な生活文化が取り巻く立地を考慮し、場所性に応じた個性的な広場を連続して配置することによって、計画地周辺の界限性を活かした多様で人間らしい空間を創出することを目指しました。また、こうした広場の総体として、大規模な緑を根付かせることを計画しました。

地元の西向天神へと繋がる「和」の佇まいを有した「郷土のにわ」、隣接街区と並木の樹種、樹形を揃え、



出会いのひろば～広場のもり～錦のひろば全景

作品概要

作品名：新宿イーストサイドスクエア
 所在地：東京都新宿区新宿六丁目27番30号
 発注：新宿六丁目特定目的会社
 設計：三菱地所設計・日本設計設計監理共同企業体
 設計協力：有限会社ソラ・アソシエイツ
 監理：三菱地所設計・日本設計設計監理共同企業体
 施工：鹿島建設株式会社
 設計期間：2008年4月～2009年9月
 施工期間：2010年5月～2012年4月
 規模：敷地面積25,809.68 m²
 主要施設：事務所、店舗

作品評

この作品は、地下鉄東新宿駅に直結する大規模オフィスビルの外構である。しかし、その外構は建物の内と外、地下と地上を境界なく結んでおり、様々な演出が施された個性的な空間が展開されることにより、周辺地域の多種多様な土地利用とも一体化している。

「就業者だけでなく地域にも開かれたオフィス屋外空間の実現」という委託者の要請に対し、建築・ランドスケープ・アート・ライティング等、様々な職能のコラボレートにより、曲線デザインを基調としたボーダーレスで立体的な回遊空間を生み出し、趣の異なる多様な空間を提供することにより、昼夜を問わずに、多様な利用を可能としている。

ディテールにこだわった施設計画はもとより、植栽木の色や形をモチーフとして、施設と調和するように検討された植栽計画は、緑が少ない都会の中で、単に緑量を確保するというにとどまらず、緑の魅力やその親しみを活かそうとしている点も評価された。

本作品は、ランドスケープ作品としてそのデザイン性が高く評価され、最優秀賞となった。

一対のデザインで構成した「繋がり」のえん」など、種々の趣をもつ広場を立地の特性に合わせて構成することにより、周辺環境とつながりを持ち、地域に根差したランドスケープを実現しています。また、これらの広場を繋ぐプロムナードは建物の内と外、地上と地下を境界なく結び付けており、ボーダーレスで立体的な回遊空間を生み出しています。この曲線的かつ起伏に富んだプロムナードを歩くことによりフレーミングされ

る風景は次々と変化し、印象的なシークエンスを体験させてくれます。

広場とプロムナードが有機的に繋がった計画地は、訪れた方それぞれが好みのルートを散策しながら、自分のお気に入りの居場所を見つけて腰をおろし、心から落ち着いて時を過ごすことができる人間らしいオフィス屋外空間として、就業者や来街者、周辺居住者等、様々な方々に親しまれています。



出会いのひろば



出会いのひろば



出会いの回廊



広場のもり



交わりのみち



錦のひろば



繋がり」のえん



華のさかみち



郷土のにわ



第30回全国都市緑化とっとりフェア（お花畑会場） 「水と緑のオアシスとっとり2013」

株式会社空間創研 後藤逸成・荘田隆久・泉 崇・福田祥子・駒井 修・宇戸睦雄
Code-L 山本 哲

□はじめに

30回目となる全国都市緑化フェアは、ともに育てる身近な緑～水と緑につつまれた世界ジオパークのまちから～をテーマに日本一の湖沼である湖山池のほとりにある鳥取市の湖山池公園をメイン会場として、平成24年9月21日から同年11月10日までの51日間にわたり開催された。

□ととりの風土・文化を活かしたフェアの実現

会場内では、水と緑あふれる鳥取の風土の特徴やジオパークの風景、鳥取の自然素材を活かし、花の彩りによる空間づくりにとどまらず、湖山池の雄大なスケールに馴染む、自然かつ印象的な風景の創出や、鳥取の地域資源である砂の文化（砂像）を取り入れた鳥取の新たな魅力発信に寄与する見所づくりを行った。また、自然と共に歩む県民・市民の力を集結した協働による緑化の推進を行うことで、鳥取らしい魅力あふれるまちを育む契機となるフェアの展開を図った。

□テーマ性のあるゾーン展開

湖山池に沿って、東西に長い形状をしたメイン会場

は5つのゾーン分けを行った。それぞれのゾーンの中を多彩な魅力をもつ2つのメインガーデンと3つのコンセプトガーデン、会場の随所を彩る9つのコンセプトボーダー、そして鳥取の「人財」による「緑」で構成した。まず来場者を出迎えるのは、賑やかで活気溢れるエントランス空間、「出会いの広場ゾーン」。このゾーンでは、砂像アーティストの茶園勝彦氏と共に創りあげた砂像と草花が融合した「エントランスガーデン」と、鳥取県一の滝「雨滝」と「横尾の棚田」をモチーフとし、鳥取の緑豊かな山々、里の景観を表現した「ウェルカムガーデン」の2つのコンセプトガーデンを中心に鳥取の風土・文化によるもてなしの空間とした。次に「鳥取の新たな緑」のカタチを伝えるメインガーデンであるナチュラルガーデン（ポール・スミザー氏監修）を核とした「ナチュラルガーデンゾーン」へと続く。ここでは、鳥取の風土の中で鳥取の身近な野山の草花の美しさや植物の持つ魅力、植物本来の姿と郷土の原風景を表現した、何度訪れても飽きることのない心地よい風景が展開する。



「砂像と植物が融合する」鳥取らしさが溢れる大地の庭

作品概要

作品名：第30回全国都市緑化とっとりフェア（お花畑会場）
 所在地：鳥取県鳥取市湖山町（湖山池公園お花畑ゾーン）
 発注：【基本計画】鳥取市
 【基本設計・実施設計・監理】第30回全国都市緑化とっとりフェア実行委員会
 設計：【基本計画・基本設計・実施設計】株式会社空間創研
 設計協力：【基本計画協力】：Code-L・アクティオ株式会社・黒羽事務所
 【基本設計協力】：Code-L・アサヒコンサルタント株式会社
 【アドバイザー】：有限会社ガーデンルームス・砂の美術館
 監理：株式会社空間創研
 【協力】：Code-L・有限会社ガーデンルームス・砂の美術館
 施工：鳥取県造園建設業協会
 設計期間：【基本計画】平成23年3月～平成23年8月
 【基本設計】平成23年12月～平成24年4月
 【実施設計】平成24年5月～平成25年3月
 施工期間：平成25年4月～平成25年9月
 規模：10.0 ha
 主要施設：主催者による展示庭園・市民による「もてなし」ガーデン・企業団体等による出展庭園・会場修景花壇及びフェアに関する諸施設・建物等

作品評

この作品は、都市緑化フェアの会場設計であるが、本成果により花の彩りによる画一的な展示空間ではなく、隣接する湖山池の雄大なスケールに対応した印象的な風景が創出された。「鳥取らしさ」と鳥取の魅力発信という委託者の要請に対し、砂の文化を造形やディテール等に展開しつつ郷土景観を取り入れるなど、会場整備に地域資源を最大限に活用するとともに、地元の人々の様々な形での参画を促すことにより、ソフト展開も含め、市民と共に鳥取色100%の会場を作り出した。
 基本計画から実施設計までを担当したことで一貫したコンセプトを作り出し、そしてそれが賞かれた点、ならびに計画設計だけでなく、関連設計や関係企業との調整、市民協働の企画運営、PR事業への協力など、多岐にわたる総合的マネジメントを展開した点が高く評価された。
 本作品は、設計部門の作品としてそのデザイン性だけでなく、総合的な取組みも含めた社会性に対し高く評価され、最優秀賞となった。

また、「みどりのまちゾーン」では、落ち着いた林の空間「ウッドランドガーデン」、グラスと草花が競演する「スタイルガーデン」に参加者の多彩な「これからのとっとり」が表現された出展空間となっている。さらに会場の一歩奥は、「まちづくりに繋がる場」の象徴となり、鳥取の『人が「動く』』『人が「もてなす』』『人が「発信する』』をテーマに鳥取の活力を伝える協働の「緑化の輪ゾーン」とした。このゾーンの中核をなすコンセプトガーデンの一つである「よりみちガーデン」は県民市民がフェアの主役となる会場での協働実践の「場」の創出をコンセプトに企画、デザイン、施工、管理を実践するガーデンとして、公募で集まった市民で構成する「みんなで作るとっとりフェアプロジェクト」の方々を主体とした、事務局と会場設計チーム

の協働によるガーデンとなっている。会場を巡り、最後に現れるのはメインガーデンである「アースガーデン」を核とした「花の畔ゾーン」。アースガーデンでは『砂像と植物が融合する』世界でも類を見ない鳥取らしさが溢れる大地の庭を表現した。花緑と鳥取の「砂」の文化、池の畔の大らかなランドスケープと花緑のハーモニー、郷土の風景に浸るゾーンとなっている。

□おわりに

鳥取の風土・文化等の資産を活かした会場設計の元、多くの「人」の参加・参画により持続性の高い都市緑化、環境づくりに向けた意識の向上や行動に繋がる「きっかけ」となることを目指した本フェア。今後のナチュラルガーデンの展開に期待したい。



湖山池の大らかな風景を際立たせる野花の風景



鳥取市民のみなさんで作った協働の庭「よりみちガーデン」



プロジェクトチームによるパーゴラ設置



水と緑のウェルカムガーデン



出展空間のウッドランドガーデン



花で癒されるヒーリングボーダー



植物と砂像によるナチュラルガーデンエントランス



ナチュラルガーデンへと導く「多年草の回廊」



発信と学びのキッチンボーダー



ナチュラルガーデンのオアシスである「巨石と湧水」の庭



中杉通りケヤキ並木60年と育成管理への転換

株式会社愛植物設計事務所 趙 賢一・佐藤 力・橋本 恵・丸山英幸・高林則之

中杉通りケヤキ並木は、戦後復興の中で住民らの発議によって昭和29年に植栽された。今日ではトンネル状のケヤキ並木となり、杉並区でも有数の並木景観が形成され、区民に親しまれる場所となっていた。しかし、長い時間をかけて大径木する中で、幹の腐朽による倒木や根上りによる歩行者への障害等の周辺住民の生活や道路交通に多大な支障をきたす恐れが高まってきた。本プロジェクトは、これらの問題状況に適切に対処し、今後も良好な並木景観を保ち続けるために、

地元住民により設立された「中杉通りケヤキ並木連絡会」と連携して、ケヤキの将来的な重新も視野にいれ計画的に管理を実施していく「並木の育成」を提案した。

ケヤキ並木育成管理の検討については、ケヤキ並木が抱える問題状況から育成管理上の課題を抽出し、保護管理方針を策定し保護管理対策を提示した。保護管理対策の内容は、①ケヤキの生育間隔を広げて一本一本の樹木の樹冠を大きく健全に育成、②数年に一回程度の剪定を行い適度な樹高を保つ、③樹木の生育状況

保護管理の考え方

- ケヤキの生育間隔が狭く、樹木同士が競り合い、弱った木が育ちません。ケヤキを健全に育てるため、間隔により、1本1本の生育する間隔を設けます。
- ケヤキの多くは樹形のバランスが悪い状態です。地味を整え良好な生育環境をつくり、美しい樹木としていくため、剪定により、樹高を15～18m程度に保っています。
- 定期的に、ケヤキの生育状況を調査し、必要に応じて、保護管理の取組を行います。

保護管理のモデル実施

本格的な保護管理の実施に先立ち、経路沿に実施するモデル地帯を設定しました。

モデル地帯は、中杉通りケヤキ並木の中で、樹齢時期が最も古い(昭和29年)同社ヶ谷駅～香梅街道のうち、同社ヶ谷1丁付近が同社ヶ谷3丁目の約100m区間とします。

モデル実施は平成24年1～2月剪定を予定しています。

現在 (現在) 樹高17m程度、生育間隔が狭い

将来 (将来) 樹高15～18m程度、生育間隔が広い

中杉通りケヤキ並木 News Letter

作品概要

作品名：中杉通りケヤキ並木60年と育成管理への転換
 所在地：東京都杉並区阿佐谷南一丁目から同区阿佐谷北四丁目地内（約3.4ha）
 発注：東京都第三建設事務所
 業務目的：地元住民に親しまれた中杉通りケヤキ並木を50年後も健全な状態で維持していくため、地域の人々と情報を共有し、合意形成を図りながら、育成管理計画を策定するとともに、管理を実施していくことを目的とした。
 業務期間：2009年8月～2014年12月

作品評

この作品は、地元で愛されているケヤキ並木を将来に亘って保全するため、基礎調査から計画策定、実施設計・モニタリング調査まで一貫して担当し、地元との合意形成を図りながら育成管理を実施しているものである。特に、並木の変遷や歴史、生育状況や樹冠投影図、植樹樹形や根上り被害などの丁寧な調査を実施した上で、現在および将来に亘る問題点を明確にし、そのための対策を導いた。こうした成果が提案の説得力を増し、合意形成に役立ったと考えられる。

一方、意識調査による地元意見の収集、ならびに連絡会議の開催やニュースレターの発行などの情報発信などにより地元と意思疎通を図った努力は評価される。その上で、間伐材を活用したベンチやコースターなど、きめ細かい配慮も活きている。

本作品は、同じような問題を抱えている街路樹管理に対するモデル的な役割を果たすものと評価され、最優秀賞となった。

を診断し育成管理計画を見直す、④枯損枝等について監視と管理による安全の確保、とした。地元住民が主体になる育成管理を実施する上で、現地見学会を実施することにより、地域住民と問題状況や将来像の情報を共有し、モデル区間に本事業の案内板を設置し周知に努めた。モデルとなる育成管理実施後は、地域住民を対象にアンケート調査を実施し、本格的な育成管理実施に際しての意見を集約した。また、住民に親しま

れ地域にとってかけがえのないケヤキは、「伐採されても地元と共にあるケヤキであって欲しい。」という住民の強い思いから、発生材の試作品としてマグネットが作成された。今後は、並木沿いのベンチ、町内の案内板等、さらに、余材は、最近都市でも利用者が増えている薪ストーブの薪、ガーデン用チップ材といった活用法も考えられ、間伐・剪定材の利用により、また新たな文化が生まれようとしている。

■ケヤキ並木の問題状況



■ケヤキ並木の経年変化



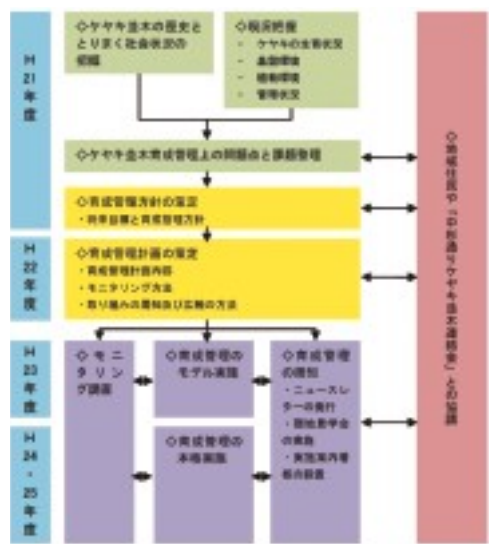
■市民との関わり



■新たな文化



■業務フロー





服部緑地で地域・企業とともにつくる 新しい価値「パークライフ」

～公園経営とエリアブランディングの視点に立ったパークマネジメントの実践～

株式会社ヘッズ 田中 康・野村はな
一般財団法人大阪府公園協会 柿谷武司・竹田和真

私たちは、北摂地域の貴重な資産である「服部緑地」の資源を最大限に活かした管理や利用者サービスの提供を通じて、北摂エリアらしい健康的でこころ豊かな暮らし『服部緑地パークライフ』の創造・提供をコンセプトに、服部緑地の活性化および北摂エリアのブランドイメージの向上を目指したパークマネジメントに取り組んでいる。

コンセプトの実現に向けては、「公園を経営する」という発想に立ち、4つのステップからなるスパイラル

サイクル『グリーンエンジン』（右下図参照）を構築し、産官学民の「投資」を集めながら、魅力あるサービスとしての『パーク・アクティビティ』を生み出し、地域へ「還元」する取り組みを続けている。

これまで、『服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会』と『服部緑地あすなろプロジェクト』の2つのプラットフォームを運営し、服部緑地を取り巻く数多くのステークホルダーと年月をかけて交流しながら、課題や理想を共有し WIN-WIN の関係を築いてき



服部緑地で地域・企業とともにつくる新しい価値「服部緑地パークライフ」のシーン

作品概要

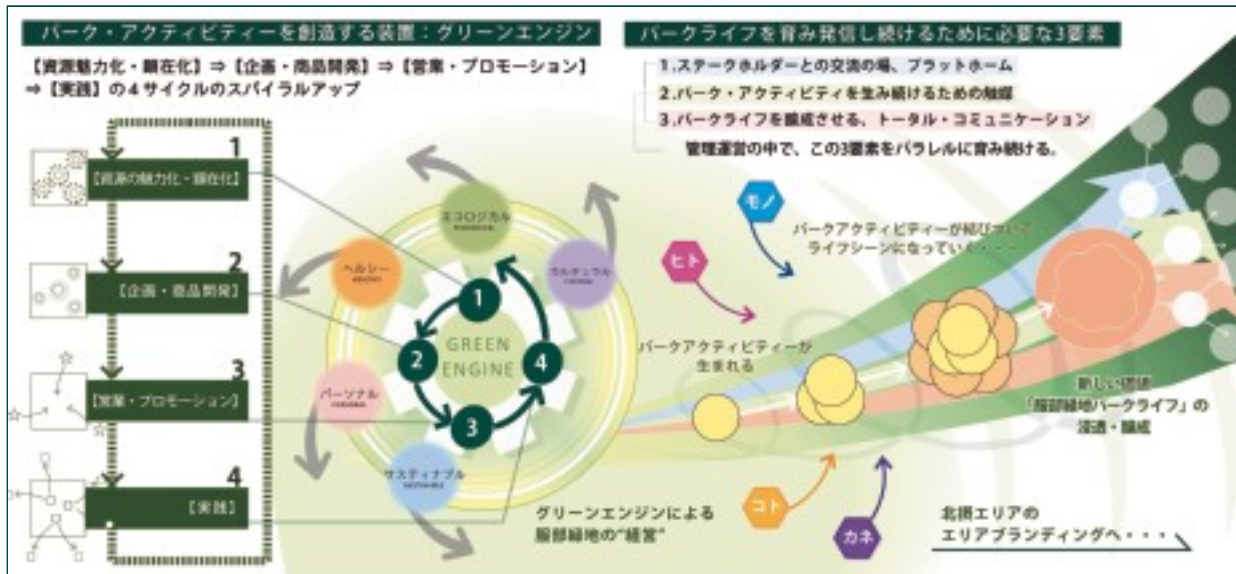
作品名：服部緑地で地域・企業とともに生み出す新しい価値「パークライフ」
 ～公園経営とエリアブランディングの視点に立ったパークマネジメントの実践～
 対象地：大阪府営服部緑地 面積126.3ha
 発注：大阪府・服部緑地指定管理グループ
 事業目的：服部緑地のパークマネジメントプランの確立と実践からのフィードバック
 事業体制：服部緑地は大阪府営公園であり、服部緑地指定管理グループが指定管理者として管理運営業務を行っている。服部緑地指定管理グループの代表企業である一般財団法人大阪府公園協会と、同協会よりコンサルティング業務を受託した株式会社ヘッズは、継続的な共同研究によりパークマネジメントプランの検討を行っている。
 事業期間：平成22年4月～平成25年3月

作品評

この作品は、「パークマネジメントのあり方」について、服部緑地という実在の公園を用いて実践している、良いモデルである。パークマネジメントのビジョン、例えば、公園や公園が立地している地域のブランド化またはバリューアップ、公園を活用した充実したライフスタイルの提供、公園活動における地域や企業と協働等々の内容が、具体に実践され、解りやすく解説されている。
 特に、説明資料では、パークマネジメントを実践するための仕組みや体制、計画と実践、情報の提供と共有、などのトータルコミュニケーションにおけるプラットフォームとしてのコンサルタントの役割が、明確に示されている。
 既に成果も見えつつあり、先駆的取組みとして高く評価され、最優秀賞となった。

た。そして、そこで生まれるアイデアや企画といった「投資」を繋ぎ導く媒体となつて、服部緑地を舞台とした様々な『パーク・アクティビティ』を生み出してきた。さらには、地域住民ひとりひとりの意識を服部緑地へ向かわせ、服部緑地で実際に過ごす時間や『パーク・アクティビティ』を通じて充実感や幸福感を得ようというように、『服部緑地パークライフ』が実感を伴って浸透・定着していくことを目指して、服部緑地

の魅力を複合的に発信するためのトータル・コミュニケーションを、地域と一体となって展開している。『服部緑地パークライフ』は地域住民ひとりひとりの中に見出される「新しい価値」であり、年月をかけて醸成されていくものである。私たちは、その過程を手助けする環境と仕組みを整えながら、服部緑地が『パーク・アクティビティ』を生み出す文化装置であり続けるよう、これからも実践を続けていく。



上：公園経営とエリアブランディングの視点に立ったマネジメントの仕組み「グリーンエンジン」
 下：実践によるこれまでの成果（左：パーク・アクティビティの創出例／右：トータルコミュニケーションの展開例）



みなとみらい21中央地区水際公園(高島水際線公園)

株式会社プレック研究所 村上 章・黛 卓郎・棚瀬新一朗・畑 隆弘

□業務の目的

みなとみらい21中央地区「高島水際線公園」において、帷子川の河口部汽水域に隣接している立地特性から、その豊かな自然環境を活用し、利用者が安全かつ身近に自然を体感できる水辺空間の設計及び管理運営方策の検討を行った。

□敷地概要

「高島水際線公園」は、みなとみらい21地区北西端部に位置する近隣公園である。JR 横浜駅やみなとみらい21線新高島駅から徒歩10分以内の距離に位置し、多

くの市民が集散する都心に近く、市民の利活用において優れた立地特性を有している。敷地形状は東西に細長く、北側は二級河川帷子川（神奈川県管理）に面している。中央を通る JR 高島線（貨物線）により二分された東西エリアは、公園連絡橋（公園と一体的に整備）により渡ることができる。

□計画概要（「潮入の池」の整備）

帷子川の親水性と景観を活かしつつ、来園者にくつろぎや潤いを与える公園を目指し、「大都市の中においても豊かな自然を安全かつ身近に感じ育てることがで



西側ゾーン：潮入の池

潮入の池では、2箇所の連通管により、帷子川の水を引き込んでいる。深さ（冠水の頻度）と底質により、干潮時に「干潟」となる2区域と、常時冠水している「溜まり」の3区域を設けている。さらに、磯場や潮溜まり、カニ生息用擁壁を整備することで、より多様な環境を創出している。

潮入の池（満潮時）



潮入の池（干潮時）

作品概要

作品名：みなとみらい21中央地区水際公園(高島水際線公園)
 所在地：神奈川県横浜市西区みなとみらい中央地区(みなとみらい6丁目)
 発注：独立行政法人都市再生機構
 設計：株式会社ブレック研究所
 設計期間：調査・基本計画：2004年11月～2006年3月
 基本設計・実施設計：2006年4月～2009年3月
 監理運営方策作成：2010年8月～2011年10月
 規模：約1.3ha
 主要施設：西側ゾーン：潮入の池
 東側ゾーン：芝生広場

作品評

この作品は、帷子川河口部の汽水域に隣接した細長い敷地を公園化したものである。「大都市の中においても豊かな自然を安全かつ身近に感じ育てることができる公園」というテーマで、環境調査・基本計画～実施設計・管理方策検討まで担当している。このような一貫した対応により、コンセプトならびに敷地計画などの基本的な考え方が、最終成果としての現地に表現されている点が評価された。

また、「潮入の池」では、冠水頻度に合わせたレベル設定や底質のパラエティーなど、多様な生物生息環境を作るための基礎的な調査と技術検討が十分になされ、具体化している。また、貨物線により分断された敷地の特性を活用して、変化に富んだ土地利用が図られている。

きる公園」をテーマに、東側ゾーンを「くつろぎの場」、西側ゾーンを「親水空間の場」として計画・設計を行った。

西側ゾーンの帷子川に面している部分は、平成18年度に環境に配慮した自然型護岸「生態護岸(神奈川県管理)」として整備したが、周辺護岸が直立型であるところを親水型とすることにより、多様な生物の生息の場を提供しており、公園整備前の生物調査段階においても生物の定着が確認されていた。

このことから、西側ゾーンでは、河口部汽水域の多

様な生物の生息空間の創出、都市の貴重な自然環境の保全・再生を目的とし、帷子川の水を連通管により引き入れ、潮の干満により水位が変化する「潮入の池」を整備した。「潮入の池」では、深さ(冠水の頻度)や底質の異なる環境をつくり、さらに磯場や潮溜まり、カニ生息用擁壁を整備することで、より多様な環境を創出している。

「高島水際線公園」は、大都会の中において水辺の生き物を身近に感じることができ、豊かな自然体験が得られる環境教育の場を提供している。



平面図



西側ゾーン：潮入の池



モニュメント

「みなとみらい21中央地区土地画整理事業」の造成工事の際に発見された歴史資産をモニュメントにしている。



トイレ



パーゴラ



東側ゾーン：芝生広場
 かつてこの地が高島埠頭であったことを示す船の線形をイメージした広場デザイン



横浜市瀬谷区二ツ橋公園及び瀬谷区総合庁舎敷地外構

株式会社環境デザイン研究所 仙田 満・斉藤 義・佐藤文昭・藤井公平

株式会社 NTT ファシリティーズ 前田 章・石川弥生・宮野隆行・木村佐知子

□ まちに開かれた公園と庁舎

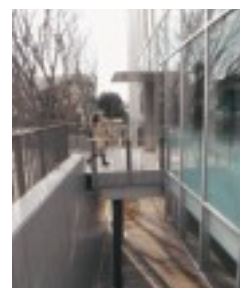
本プロジェクトは横浜市のPFI事業であり、「区民のためのもり、杜の庁舎」をテーマとした、都市公園と総合庁舎を一体とした開発計画である。庁舎は区役所・公会堂・消防署等で構成され、旧公園の東半分と地下駐車場の上部を連続した公園として整備した。従前の建物を使用しながら段階的に整備・解体が行われ、最終的には従前の都市公園と庁舎敷地が90°回転し、公園のオープンスペースと緑がまちにひらき、その背後に庁舎が建つという新しい景観を創出した。

□ 豊かな緑の保全・継承

旧公園には高さ10mを超えるケヤキ・サクラ・イチョウなどの大径木が多数存在し、これらを極力保全・活用しながら四季の変化に富んだランドスケープを創出した。また瀬谷区の花で旧公園の特色でもあったアジサイをなるべく活用し、新植も加えてあじさいの小苑としてリニューアルした。これにより瀬谷区を象徴する「豊かな緑空間」を受け継ぐと共に、庁舎との景観・環境調和や生物多様性にも配慮し、誰もが気軽に立ち寄り、安らぎとのおいを得られる公園を創出した。



公園から庁舎2階へのアプローチ



庁舎2階入口



公会堂南側



杜の庁舎を演出する保存樹木



庁舎正面のクスノキ



ストライプパターンのエントランス広場

作品概要

作品名：横浜市瀬谷区ニツ橋公園及び瀬谷区総合庁舎敷地外構
 所在地：横浜市瀬谷区ニツ橋町190
 発注：横浜市及びグリーンファシリティーズ瀬谷株式会社
 設計：株式会社環境デザイン研究所（ニツ橋公園）
 共同設計：株式会社 NTT ファシリティーズ（庁舎外構）
 監理：NTT ファシリティーズ・環境デザイン研究所設計・工事監理共同企業体
 施工：鹿島建設株式会社
 設計期間：基本設計：平成20年9月～平成21年3月
 実施設計：平成21年4月～平成21年12月
 施工期間：平成22年1月～平成25年3月
 規模：横浜市瀬谷区ニツ橋公園：6,026 m²
 横浜市瀬谷区総合庁舎外構整備：3,367 m²
 主要施設：ニツ橋公園：自由広場、遊具広場、トイレ、園路
 瀬谷区総合庁舎外構：車寄せ、駐輪場、園路・広場

作品評

この作品は、区役所+消防署+公会堂といった総合庁舎建て替えに伴う屋外空間を、都市公園と一体化して整備したものである。庁舎建て替えという業務の性格上、区役所としての機能を保持したまま移転してゆく過程では、成果には表れない多大な知恵と工夫があったものと推察される。加えて、新設する駐車場の上部に公園空間を配置したり、土地の記憶を残す大径木や、市民に親しまれていたアジサイ（区の花）を積極的に移植活用するなど、まさに建築設計とランドスケープが一体となり、基本設計から工事監理まで一貫して行わなければ不可能な現場であったと考えられる。

説明資料は、こうした難工事の様子を段階的に示して解りやすく解説している。庁舎と外構である公園部分とのレベルも、調整が行き届き、緑豊かで快適な空間が創出されている点に評価が集まった。

性格の異なる2つの広場

公園は南側の「遊具広場」と北側の「自由広場」で構成され、相互を緩やかな斜面や回遊園路で結び一体的な利用を可能としている。遊具広場はケヤキ・イチョウなどの既存の大木を現状位置に保存しながら円形のオープンスペースやオリジナル遊具を整備し、緑豊かなあそび・休憩空間を創出した。自由広場は地下駐車場の上部に新たに設けられ、開放的な芝生広場と周辺の緑地・休憩スペースで構成される。2つの広場の間を庁舎2階へのアプローチが象徴的に貫いている。

統一感のある庁舎外構

公園と庁舎は自由な行き来と一体的な利用を前提とするため、分かりやすい動線や統一感のあるデザインに配慮した。公園と庁舎の境界沿いに「とおり空間」を設け、明快な南北軸の動線を構成した。旧庁舎正面のクスノキの大木をシンボルツリーとして保存すると共に、四季の彩りをテーマとした植栽やアジサイの移植活用、カラフルなインターロッキングのストライプパターンなどは公園と共通としながら、新しい建築にふさわしい整然としたデザインを心がけた。



配置図及びA-A'断面図



イベントにも使える芝生の自由広場



年齢に合わせて遊べる遊具広場



ストライプの舗装パターン



あじさいの小苑



南北軸のとおり空間



整然としたデザインのエントランス広場



向山古墳群公園

株式会社オオバ 小林高浩・木村晃一・松岡史展・小柳太二

向山古墳群は三島市の南西部、箱根外輪山の中腹に位置している。伊豆地域で初めて確認された前方後円墳を含み駿河・伊豆地域の歴史を解明する上で重要な古墳群であるとして、平成11年3月静岡県史跡に指定されている。本作品は古墳群を中心とする約1.8haについて基本計画の見直しと測量・実施設計を行ったものである。

□委員会の意見とコンサルタントの提案

計画の見直しにあたり「向山古墳群環境整備検討委員会」が設置された。同委員会は考古学・文化財保護の専門家を委員とし、県の文化財保護課や三島市役所の行政職員がオブザーバーに加わり、保全対策と展示・学習手法について専門の見地からの幅広い指摘があった。

コンサルタントからは古墳群の覆土保存の工法案を示すと共に、見学者が古墳見学順路を選択できるように複数の園路を巡らせること、古墳毎にポケットス

ペース（解説板・ベンチ）を分散配置することで古墳の輪郭を際立たせて地域の歴史を表す造形物とすることを提案した。

□コンサルタントの果たした役割

見直しはゾーン設定の再編に及んだ。各古墳の保存状況を確認した上で、計画地内の園路動線だけでなく既存市道の歩道（通学路指定）も活用して園内3つの地区のネットワーク化を図った。また、文化財包蔵地では大規模な基礎工事ができないことから便益施設（トイレ、四阿等）の導入のために隣接民有地の組み入れを提案した。協議の結果この提案が受け入れられ、計画地を拡大することで利用拠点整備が実現し利便性が向上した。委員会では事務局の一員としてコンサルタントが説明を行い、委員と意見を交わしながら整備の方向性を固めていった。



開園記念式典(14号墳上) 見晴台からは三島市の市街地と富士山の大展望が得られる



整備前(C地区) 以前は畑や樹林が広がっていた。発掘調査でA、C地区は樹木が取り払われた



園路と周溝(C地区) 周溝は古墳周りに掘られた溝のこと。消失した古墳は周溝で位置を明示した



整備後(C地区) 古墳は覆土して保存、盛土の上に園地を整備した。トイレ、四阿は文化財包蔵地の指定区域外に新たに用地を確保して設置した



エントランス(C地区) 比較的平坦なC地区に便益施設を集めて配置し、利用しやすいガイダンス広場とした

作品概要

作品名：向山古墳群公園
 所在地：静岡県三島市谷田688番33ほか
 発注：三島市役所教育委員会文化振興課
 設計：株式会社オオバ
 監理：三島市役所建設部水と緑の課
 設計期間：2010年8月～2012年3月（2カ年）
 施工期間：2012年度
 規模：約1.8ha（特殊公園）
 主要施設：保全対象古墳14基（静岡県指定史跡）、ガイダンス広場、多目的広場、散策園路、復元展示（主体部、周溝など）、解説サイン、休憩所、トイレ

作品評

この作品は、静岡県史跡に指定された古墳群について、その保全とともに古墳群について学びながらゆったりと時を過ごせる史跡公園として整備したものである。敷地中央を横切る市道整備とともに、考古学や文化財保護の専門家と地元県や市を交えた委員会を運営し、設計案をまとめ上げた。開園記念式典の様子や、整備に際して地元小学生による芝生植付けへの協働など、地元の良好な評価の状況が伝わってくる。
 設計内容は、古墳の覆土保全を中心に、散策園路と休憩施設、サインといった標準的なものだが、全体に抑えたデザインが墳丘の緑を引き立てている。また、トイレ等の基礎構造物を有する施設を設置するため、文化財包蔵地を避けた敷地の取得を提案するなど、コンサルタントとしての技術発揮について、高く評価された。

□ 作品の特色

計画地西端の14号墳の上からは、北に富士山と裾野を望み、東から南に箱根・伊豆の山々、西に駿河湾や三島市街が広がり展望に優れることから見晴台とした。また敷地が細長く、中央を貫く市道の両側に古墳が分布することから市道の歩道を含めて周遊ルートを設定した。全体の整備方針は以下の通り。

- ① 楽しく散策し、ゆったりと滞在できる空間の工夫
 - ・古墳を巡りながら快適に散策できるバリアフリー園路
 - ・学習・交流・休憩の場（ガイダンス広場、休憩所、便所）
 - ・円墳と園地が調和する円を基調としたデザイン
- ② 古墳群の保全、学べる展示の工夫
 - ・盛土と張芝による古墳の保護

- ・歴史遺構の再現展示（主体部、周溝、消失古墳）
- ・案内サイン、解説サインの系統的な配置

□ 郷土の歴史に想いをはせる憩いの場所として

2013年4月の開園記念式典は、市長をはじめ地元関係者が出席して盛大に行われた。現在では散策利用者、歴史愛好家、地元小学校の授業などの幅広い利用があり、小学生からは「身近に色々な形の古墳があることが分かり歴史に興味をわいてきた」「本物の古墳を初めて見学して大きさや形を理解できた」等の意見が寄せられている。また一般の方からも実物大の陶板による主体部の展示や張芝による古墳の保護と快適な空間の創出に高い評価を得ている。古墳公園として整備したことにより教育的な成果が上がると同時に、市民の憩いの場としての活用が実現し、古墳の保全・活用の好例となっている。



地元小学生による芝苗植付け



整備前(A地区) 起伏が大きく道路側が崖となっていた



主体部 棺は実物大の写真陶板で表示



完成予想パース 上から順にA, B, C地区。全長450mに13の古墳が分布する



整備後(A地区) 古墳の一部が市道で削られていた為、市道側は擁壁とフェンスで仕切って古墳の姿を最大限に見せる工夫をした。急峻な地形だったが8%以内の勾配に抑えて周遊園路を配置した



整備後(B地区) 張芝せず発掘時の状況を見せる



計画イメージ(上)と完成後(下) ほぼ提案に近い姿で仕上がった



前方後円墳(A地区) 最奥の高い段の円形と一段下がった方形の墳丘の姿が分かる



国営木曽三川公園 フラワーパーク江南

株式会社ブレック研究所 安河内泰男・松崎 淳・長谷川均

□大河川景観と呼応した雄大なランドスケープ

本公園は、木曽川の流れた細長い敷地である。隣接する堤防の上に姿を現した伊吹山地を借景に、「空」「緑」「花」で構成されるダイナミックなランドスケープを展開した。

敷地の造成も大らかな木曽川の流れと呼応する、緩やかなアンジュレーションとし、公園の中央には奥行き感のある草原を配置することで、どこまでも続く大河のように雄大な景を創出した。

□空・雨・川へとつながる水の流れのランドスケープ

エントランス空間には、大きな円形の水盤を設けた。

この水盤は、空を映す鏡の役割を担う。来園者は、天空と地上の境に広がる、花と緑に溢れた風景で出迎えられる。

この水盤の周囲からは、断続的にミストが発生する。それは天空に浮遊する雲のように、水盤上に景を落とす。空に雨を呼ぶ雲が広がり、やがてそれらは水盤を源とした流れとなり小川となって、来園者を草原の中へと導いていく。

□市民協働の花壇を中核とするランドスケープ

市民花壇のエリアを起点として、メイン花壇～水の庭～果実の庭～香りの庭～ボーダー花壇～風の庭と、「暮らしと花」をテーマとした花壇を、中央の草原を



水盤池
天空と地上の境に広がる花と緑の景を映し込む



メイン花壇と水盤池 市民協働による運営で、メイン花壇の彩りも季節で変化

作品概要

作品名：国営木曾三川公園（江南花卉園芸公園）
 所在地：愛知県江南市小机町一色
 発注：国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所
 設計：株式会社ブレック研究所
 施工：日産緑化株式会社，林本建設株式会社，大興建設株式会社，株式会社理研グリーン，アイシン開発株式会社，名稲建設株式会社，大島造園土木株式会社，株式会社佐藤渡辺，株式会社造園サービス，株式会社岐阜造園，株式会社渡辺組，株式会社市川工務店，ヤハギ緑化株式会社
 設計期間：平成13年9月から平成14年3月及び平成17年1月から平成17年3月
 施工期間：平成15年度から平成23年度
 規模：公園全体約39 ha（基本設計：約39 ha 実施設計：約12 ha）
 主要施設：メイン花壇，市民花壇，水盤池，霧のデッキ，散策園地（水の庭，風の庭，ボーダー花壇，展望台等）

作品評

この作品は，市民協働を前提とした「暮らし提案型」のフラワーパークの造成である。基本計画時点で設定したコンセプトを貫き，基本設計時点で協働母体を抽出し，実施設計段階で具体化へ向けた意見調整を進めつつ実現した。花を効果的に見せるため，場を絞り込んで展開したことにより，芝面や水面とのメリハリのある景観を生み出すことに成功している。特に，中央に設けた水盤を始めとして，奥行き感が演出された芝生広場と流れなどの水景が効果的に取り入れられ，花の景が際立っている。

また，管理エリアや駐車場などのバックヤードを入口側に集約したことにより，堤防に挟まれた制約のある敷地形態が活かされた土地利用となっている点などが評価された。

回遊するように配置した。

来園者は，移り変わる花の風景を楽しみながら，自宅でのガーデニング意欲を一層かき立て，花の取り入れ方を想像しながら，歩を進める。

□花を主役とする演出と控えめなデザインによるランドスケープ

美しい花で彩られた雄大な風景を最大限に演出する

ため，建築物など立ち上がりのある施設，駐車場等は，エントランスエリアの背後となる東側に集約的に配置した。

また，木曾川と公園の両方向を見渡す展望台を堤防の高さに設け，優美な花壇景観と，攪乱で形成されたワイルドな河原の景観を対比する，ピクチャレスクなビューを実現した。



市民花壇



市民花壇と市民ハウス



霧のデッキ



風の庭



メイン花壇（建物は別途設計）



JR 荻窪駅北口駅前広場修景整備設計

株式会社グラック 劔田和良・西山秀俊・井野貴文

□ 計画の経緯

対象地である JR 荻窪駅前広場周辺は、商業・業務・文化などが集積し「にぎわいの核」となる場所である。しかしながら駅前広場が狭小な空間であり、交通結節点機能が不足し、街の顔としてふさわしい駅前景観となっていない等の問題を抱えていた。これらの問題の解決に向け、東京都による駅前広場の基盤整備とともに、杉並区が駅前広場の修景に関わる整備を行った。

□ 計画の特徴

計画では、荻窪のまちの統一イメージを築き、まち

の顔としての修景を行うことが求められた。そして区民が愛着と誇りを持てる駅前広場とするため、荻窪が音楽を中心とした文化的な魅力を発信する地区であることを活かし、計画地を「区民の期待と想いに応える重奏空間」と位置づけた。そして、駅前広場に整備する多様な施設機能を調和させることを目指した。

デザインにおいては五線譜に例えた5つの空間要素でランドスケープを展開した。

□ 設計内容

・スカイスケープ：シェルター

駅前空間のランドマークとしてシンプルかつ空を感



駅前広場機能として新たに創出され、フレキシブルな利用を考慮した多目的広場

作品概要

作品名：JR 荻窪駅北口駅前広場修景整備設計
 所在地：杉並区上荻1丁目143-1
 発注：杉並区 都市整備部 まちづくり整備課
 設計：株式会社グラク
 施工：中江建設工業株式会社
 設計期間：平成21年10月～平成22年3月
 施工期間：平成22年10月～平成23年3月
 規模：約3,000 m²
 主要施設：歩道：シェルター、透水性平板ブロック
 舗装、ベンチ小広場：デッキ、ベンチ、スクリーン、
 ブランター
 植栽(高木)：ケヤキ、ヨウコウ、クスノキ、カツラ、
 コブシ
 (中低木)：オギ、イヌマキ、ツツジ、ハイビヤクシ
 ン、コグマザサ

作品評

この作品は、駅前広場の整備であり、道路管理者・交通事業者・警察等の関係者との調整はもとより、特に「荻窪らしさ」を演出するため市民意見を取り入れたコンセプトを作り出し、半年という短期間の中で、全体調整を取りまとめた整備したものである。

ランドスケープを形作る五つの要素を五線譜に例え、「荻窪シンフォニー」という重奏空間の創出により「荻窪らしさ」を表現するというコンセプトは解りやすく、説明資料も明快であった。実際に供用後すぐに野外音楽祭が開催されるなど、市民の評価も高い。

また、限られた空間の中で、多くの関係者の利害を調整し、必要とされる機能を満足させつつ、まちのエントランスとしてふさわしい景観を生み出した点が評価された。

じるような軽やかな形態のシェルターを歩道空間に展開した。

・フロアスケープ：舗装

荻窪のイメージに相応しい上質感のある素材感や色調・パターンフロアスケープを展開した。

・フレキシブルスケープ：小広場

滞留空間として、待ち合わせや電車を眺めるなどの日常的な利用や、イベント時の拠点としての様々な利

用ができる求心性のある広場を展開した。

・グリーンスケープ：みどり

荻窪の風景に調和する樹木の導入により、ドライで雑然とした駅前立地の空間に潤いを与え、統一感のある街並みを形成した。

・ナイトスケープ：夜景

帰路につく人々をやさしく迎えるための安心感のある「あかり」の景を演出した。



ランドマークとなる駅入口の大屋根シェルターとケヤキ



五線譜をモチーフとして取り入れた舗装パターン



明るく軽やかな形態のシェルター



鉄道との「見る・見られる」の関係性を考慮した広場



夜の景として、賑わいを感じさせ安心感を与えるやさしい光の回廊



「対馬市環境基本計画」～物語で描く島の将来環境像～

株式会社プレック研究所 辻阪吟子・村瀬俊幸・米塚佐世子

対馬市は、島の約90%が森林に覆われるなど豊かな自然に恵まれているとともに、古くからの大陸との交易による独自の歴史・文化に彩られた島である。しかし、一方で、高度経済成長による生活様式の変化、過疎化・高齢化の著しい進行等により、森林の荒廃や地域社会の衰退が問題となっている。このような中で、対馬市では、平成23年に、「今まで以上に森・川・里・海が連環し環境に配慮した持続可能な社会経済活動を推進するとともに、人とツシマヤマネコをはじめとする

野生動植物が共生できる島づくりを目指し」で環境基本条例を制定している。本業務は、この条例に基づいて、市の環境施策の基本となる環境基本計画を策定するものである。


私たちは、環境基本計画策定を、市民による環境まちづくりの第一歩と考え、目指すべき環境像（環境の将来像）を市民にいかにかわりやすく示し、共感が得られるかが重要と考えた。そこで、環境の将来像を物語風に描くという、物語計画手法を採用した。

2025年までに実現したい対馬の姿

対馬市の環境が抱える課題をどのように解決するのか
素晴らしい環境をどのように創っていくのか

市民・事業者・行政・滞在者のアクションプランとして取りまとめたものです。

対馬市環境基本計画に記した「アクション」を実行した場合、今から10年後、つまり、2025年ごろの対馬の環境は、どのようになっているのでしょうか。10年後の私たち自身に、未来の対馬の様子をインタビューしてみましょう！



そうやな～、

君たちがいる2013年頃は、「対馬市森林づくり基本計画」や「対馬市伐採ガイドライン」をつくって、なんとか森林の環境問題を解決しようと取り組み始めた頃やったね。


自分がこの10年間、特に力を入れてきたことは、森林の恵みを色んなかたちで、使っていくこと。従来のように建築材として使うことに加え、薪やチップにしてエネルギーに使ったり、広葉樹のほだ木でシイタケ栽培をしたり、あとは、森林セラピーって言って、疲れた心や身体を休める場所として使ったり。

森林資源を使うことで、森林の手入れが進むし、なによりも森林の価値をたくさんの人に知ってもらえるからね。森林って、宝の山なんだよ。

あと、2013年頃に大きい問題になったシカやイノシシは、毎年数千頭を駆除して皮革製品やジビエ料理にうまく使われとるよ。貴重な植物が生育しとるエリアを柵で囲って、シカやイノシシの食害から守る努力もしとるから、対馬の固有動植物も少しずつつやけど増えてきてるよ。

森林づくりというのは、息の長い仕事やけ、すぐには良くならんもんね。あせらず一歩一歩やっていくしかないよ。今の努力が未来をつくるけ頑張ってくれんね！

2025年 森の姿



物語で描く島の環境の将来像—2025年森の姿（対馬市環境基本計画 概要版より）

作品概要

作品名：「対馬市環境基本計画」
 ～物語で描く島の将来環境像～
 対象地：長崎県対馬市
 発注：長崎県対馬市
 事業目的：対馬市環境基本条例に基づき、環境の保全及び創造に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画として、環境基本計画を策定する。
 事業体制：株式会社ブレック研究所行政計画部
 事業期間：平成24年10月～平成25年3月
 事業規模：対馬市全域

作品評

この作品は、市の環境基本計画の内容について、市民アンケートや市民インタビューの結果から、「10年後の仮想市民の言葉で語る」という独創的な手法で、目指すべき将来像を描いたものである。方言も交えた市民の言葉で、イラストを多用して物語風に描かれた内容は、市民に親しみを持って迎えられ、理解されやすいものになったと考えられる。また、単に環境だけの問題ではなく、社会・経済的側面との両立の上で、姿を描いているため、受け入れやすいものとなった点が評価された。
 多くの環境基本計画は、行政計画の一環として行政内だけの資料となりがちで、なかなか一般化されにくいのが現状であるが、本成果は、これに対し、本文内も図版が多用され、解りやすく、親しみやすいように工夫されている。

物語計画手法においては、できるだけ市民自身の言葉で将来像を描くことを目指して、市民アンケートによって「残したい自然・風景」を調査するとともに、市民へのインタビュー調査を実施、そこで得られた言葉をもとに物語を作成した。インタビュー調査では、環境と社会・経済を一体的にとらえるという考え方の下に、特に生業、暮らしの面に着目、農業者、漁業者、観光業者、主婦、教育関係者等を中心に先導的な取組

を行っている市民10名のインタビューを行ったが、その成果が計画の骨格を形成するものとなった。

さらに、将来像を単に物語風に描くというだけでなく、10年後の市民へのインタビュー形式で構築する、これを計画の冒頭にプロローグとして位置付けるなどの工夫を行ったことで、市民に読まれる計画づくりが相当程度達成できたと考えている。



計画の考え方と施策



対馬の環境将来像全体イメージ図





愛・地球博記念公園「あいちサトラボ」

株式会社オオバ 小林高浩・木村晃一・松岡史展・小柳太二

あいちサトラボ里山開拓団 加藤正人

愛知県立芸術大学美術学部デザイン・工芸科水津研究室 水津 功

愛知県尾張建設事務所都市施設整備課 山口知幸

公益財団法人愛知県都市整備協会 黒滝真克

2013年6月1日、愛・地球博記念公園に「あいちサトラボ：農のエリア」がオープンした。本作品は「県民協働による公園計画づくり」と「公園利用者と行政とのパートナーシップによる公園管理運営支援」のハード・ソフト両面における取り組みである。

□ 県民協働で取り組む「県民公園づくり空間」

2005年日本国際博覧会の会場であった本公園は、博覧会閉幕後に再整備基本計画がまとめられ「県民と行政とのパートナーシップによる公園整備と管理運営」が掲げられた。その中で本エリアは「県民公園づくり空間～県民の参加・協働によりみんなで公園を育てるエリア～」に位置づけられた。これは利用に留まらずテーマ設定や整備・運営も県民意思を尊重する「公園づくりの実験場」というべきものであった。

□ 公園計画と公園管理運営のプロセス

2007年度に愛知県がワークショップを呼びかけたが

博覧会の余韻が残る中、参加者からはパビリオンや国際交流施設などを求める様々な意見が寄せられ、色々な思いが乱立する状況であった。

当初は愛知県とコンサルタントとで事務局を務め、コミュニティデザインに精通するアドバイザーの助言を得ながら将来像の具現化に取り組んだ。ワークショップ参加者による準備会が活動を開始し、整備目処が立つ頃から公園管理受託者も本格的に加わり協働体制を築いていった。この長期のプロジェクトを着実に進められたのは県民参加を堅持してきた事業者（県の歴代の関係者）のゆるぎない姿勢によるところが大きい。

これまでの各段階でのポイントを次に示す。

- ①構想段階：初期は県民が主役となれるビジョンの確立に注力した。丸2年に及ぶ議論を経て漸く「自分たちの手でつくっていくプロセスを大切に、農の営み



稲刈り 多くの労力を要する田植えや稲刈りは参加者を募集して実施している。左奥の建物が拠点施設「ラボハウス」。その手前が畑、右斜面には果樹園が広がる



開拓開始 2010年に礫・粘土の劣悪地の土作りから開始。合言葉「火星を開墾」



開園祭 2013年6月1日の開園式には大村知事が来園され祝辞を頂いた

作品概要

作品名：愛・地球博記念公園「あいちサトラボ」
 対象地：愛・地球博記念公園の県民公園づくり空間「あいちサトラボ」エリア
 愛知県長久手市茨ヶ廻間乙1533-1他
 発注：愛知県尾張建設事務所都市施設整備課
 事業目的：県民の参加・協働による「あいちサトラボ」の推進（調査・計画・設計・建築施設工事監理・活動運営）
 事業体制：株式会社オオバ
 以下の団体との協働により調査・計画・設計・活動運営支援を7年間一貫してコーディネート（注：業務受託できなかった1年間は個人会員として参加）
 協働者等：（活動団体）あいちサトラボ里山開拓団（会員65名）
 （事業者）愛知県尾張建設事務所都市施設整備課（公園管理受託者）公益財団法人愛知県都市整備協会愛・地球博記念公園管理事務所
 （総合アドバイザー）愛知県立芸術大学美術学部水津研究室 水津 功
 （農業指導）特定非営利活動法人長久手公共施設協力会
 事業期間：2007年9月～2009年6月※1、2009年8月～2011年3月、2012年4月～2014年3月 ※1：担当者が前所属会社（飯沼コンサルタント：廃業）で従事
 事業規模：供用区域約1.7ha（計画面積約8.1ha）

作品評

この作品は、公園内での農体験という、都市における公園の新しい活用方法について、愛・地球博記念公園内の一角を舞台として実践しているモデルである。「県民協働による公園づくり」という計画づくりをサポートしつつ、「公園利用者と行政とのパートナーシップによる公園管理運営」という具体の活動についても支援している。計画づくりで6年、活動支援で5年という長きに亘る継続的なマネジメントと、それを支えた努力、ならびに多岐におよぶ業務内容を具体化した能力が評価された。
 特に、様々なレベルでの市民意見を丹念に調整し、「現代の里山づくり」というコンセプトをまとめ上げ、実践している点に評価が集まった。

や先人の知恵を実体験することで自然の循環を学び伝える場」とする県民参加の基本方針がまとまった。

- ②設計・整備段階：活動準備会結成後の2年間は、準備会をサポートしつつ、基盤施設・建築施設の基本・実施設計をワークショップ方式で作りを上げた。設計は人力では困難な基盤造成やインフラに留め、過度なデザインは避けて「人の手で里を開拓し、試行錯誤しながら作っていきける」舞台を整えることに主眼を置いた。
- ③運営段階：基盤整備が進んだ後の直近3年間は拠点施設「ラボハウス」の施工監理と共に、発足した活動団体「あいちサトラボ里山開拓団」の事務局運営をサポートしている。オープン後は一般来園者へのガイドやプログラム提供も加わり、県民が主役の「現代の里山づくり」に協働で取り組んでいる。

□共感型コミュニティの形成をめざして
 「あいちサトラボーAichi Satoyama Laboratory」

は「里山づくりに取り組む中で多くのことを学ぶことができる里の実験場」である。日ごろ自然や里から離れ暮らす「素人」の県民一人ひとりが試行錯誤の中で里山のくらしを体得し、知恵を学べる場所となっている。

開始から8年目を迎え、現在は田・畑・果樹園・花壇・森などで農業や森林分野等の専門アドバイザーの助言を得ながら里山のくらしを実践し、学びと交流の輪を公園利用者（県民）へと拡げている。

「現代の里山の創造」を目指す開拓団の活動が従来の地縁型コミュニティとは異なる非日常コミュニティを育てており、公園が理念に共鳴する人が集う「共感型コミュニティ」の受け皿となる可能性を感じている。2015年に本公園で「都市緑化あいちフェア」が開催される。2年後には更に開拓が進んだ里の姿が示せるよう、協働者が心を合わせて取り組んでいきたい。



餅つき 栽培作物を調理する「食育」を重視しプログラムに取り入れている



会員制プログラム 「お米と野菜作り隊」など複数を実施



畑の作物栽培 野菜は調理の他、体験学習等に活用



森の手入 植生調査、森づくり計画を立てて活動



雪の朝 手製の芝ソリはいつも大人気、雪の日はグレンデ誕生



世話役会 協働関係者が平日夜に集まり調整（ラボハウス）



作品評

この作品は、震災復興の証として「市民参画によりつくり続ける公園」を具体化するために、設計段階での市民ワークショップの開催、工事監理段階での市民参画メニューの実施、そして維持管理段階での市民運営の提案を行ったものであり、6年以上の長期に亘り、多様な設計や監理の業務を取りまとめた総合力の成果である。

震災の経験を後世に語り継ぎ、将来の災害に備える防災設備を有した防災公園としても機能しており、市民と行政が協働しながらつくり続ける仕組みが揃えられている。

神戸震災復興記念公園（愛称：みなとのもり公園）

株式会社エイト日本技術開発ほか5社 岡村郁雄ほか18名

計画地は、神戸市役所・東遊園地（慰霊と復興のモニュメント・1.17希望の灯り）につながる、国道1号を挟んだ旧JR貨物神戸港駅跡地である。

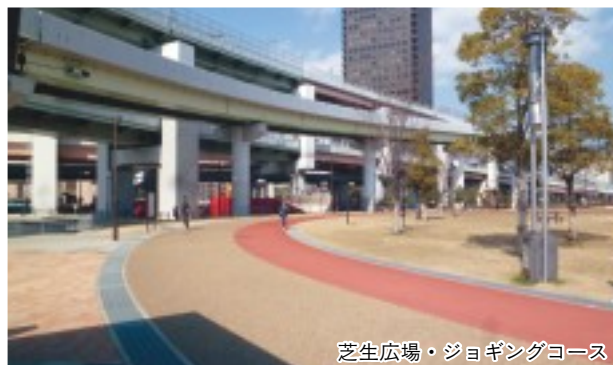
本公園は、みなとのもり公園検討会提案書を踏まえ、「市民参画によりつくり続ける公園」を具体化するため、実施設計及び工事、工事監理においても市民との協働による公園づくりを進め、また独立行政法人都市再生機構が進めている防災公園街区整備事業として、防災公園と周辺市街地の整備改善を一体的に実施する事業の取組みを行ったものである。

広がりのある芝生広場（みんなでつくる広場）を中心に、市民参画を始めるゾーン（苗圃，語り継ぎの広場等）、もりをつくるゾーン（市民による苗木植栽等）及び高架下を有効活用するゾーン（ニュースポーツ広場等）を計画し、阪神・淡路大震災の経験を後世に語り継ぎ、将来の災害に備える防災機能を有し、市民と行政が協働しながらつくり続ける公園整備を実現した。

作品概要

- 作品名：神戸震災復興記念公園（愛称：みなとのもり公園）
- 所在地：神戸市中央区浜辺通
- 発注：神戸市、独立行政法人都市再生機構西日本支社
- 設計：株式会社エイト日本技術開発、株式会社環境緑地設計研究所、株式会社ジャス
- 設計協力：市民ワークショップ（株式会社地球号）、基本設計懇話会及びみなとの森公園検討会、杉本正美名誉教授（九州芸術工科大学・神戸芸術工科大学）ほか
- 監理：株式会社エイト日本技術開発、株式会社URサポート
- 施工：株式会社西原組・大正建設株式会社、丸山造園土木株式会社、丸正建設株式会社、株式会社タイキ、関西植木株式会社
- 設計期間：平成16年2月～平成22年3月
- 施工期間：平成16年3月～平成22年3月
- 規模：約5.6 ha
- 主要施設：芝生広場、ジョギングコース、多目的広場、ニュースポーツ広場、安全の鐘、語り継ぎ広場、苗圃、災害用仮設トイレ、展望の丘、備蓄倉庫、イベント広場、交流広場、もり（外周植栽）等

広がりのある芝生広場（みんなでつくる広場）



芝生広場・ジョギングコース

歌碑（しあわせ運べるように）



被災樹木等

市民参画を始めるゾーン（語り継ぎ広場）

市民参画を始めるゾーン（苗圃）



栽培温室・資材倉庫

安全の鐘



ニュースポーツ広場



展望の丘（備蓄倉庫）



もり（市民による苗木植栽等）

もりをつくるゾーン及び高架下を有効活用するゾーン



中野四季の森公園

パシフィックコンサルタンツ株式会社

西上律治・三井亨保・岡野郊子・池田陽祐・頓所弘行・新畑朋子・平本 圭・吉川智子・
福田雅世・斉藤泰久・細川照生・岡本尚胤・佐竹 健

有限会社イー・エー・ユー 西山健一

東京大学社会基盤学科 中井 祐

本公園は、駅から近い上に商業施設や大学等の民有地に3辺が囲まれた立地であることから、中野の顔としての賑わいの演出が求められ、また災害時には約10万人を収容する広域避難場所の一部であることから、生活用水・災害用トイレ・避難スペースの確保が求められた。

そのため、「まち」「ひと」「防災」「環境」の要素を統合化し、人の流れやたまりをプログラムしデザインした。具体的には、生活用水を確保し、賑わいを演出する装置となるよう防災用井戸を水源とした水景施設（流れ、池、噴水）を設置した。また、トイレ棟の計画では、災害トイレ用のテント等を備蓄する倉庫を併設するだけでなく、平常時には、プレイリーダの活用拠点となり、災害時の活動拠点ともなる多目的ス

作品評

この作品は、中野区の警察大学校等跡地利用におけるオープンスペースとして、賑わいの演出とともに、災害時の防災拠点として機能する公園を整備したものである。災害時における水の提供を意識した水景施設は、日常利用における公園のシンボル施設として豊かな景観や雰囲気を提供しており、その他の広場の使い方など防災機能と日常利用のデザインが違和感なく調整されている。

また、地区全体の委員会や周辺関連施設との調整、施工に際しての芝種や舗装材の試験施工など、こうした取組みが設計にうまく反映され、全体として周辺施設と一体性を持った空間ができています。

ペースを併設した。今後、ここを拠点としプレイリーダが育っていくことを期待している。

作品概要

作品名：中野四季の森公園
所在地：東京都中野区中野4丁目13番
発注：中野区
設計：パシフィックコンサルタンツ株式会社
設計協力：有限会社イー・エー・ユー、東京大学社会基盤学科
中井 祐 教授
監理：パシフィックコンサルタンツ株式会社
施工：飛鳥・大澤JV
設計期間：基本計画：2008年10月～2009年3月
基本設計・実施設計：2009年6月～2010年3月
施工期間：2010年10月～2012年3月
規模：約1.5 ha
主要施設：多目的広場、池、流れ、噴水ステージ



ほとんどの樹木を地区内から移植することで、竣工当初から大きな木に包まれ、枝下の見通しが確保できた



噴水（WATER ROOM）。ノズルを田の字型に配置し、各辺を形成する12の水の壁がつくる噴水の部屋をこどもたちが自由に移動できる
災害時には噴水周りの池や流れで生活用水が採取できるように設えた



公園内のイベント時の様子。多くの人で賑わいながらも、滞留空間と歩行空間を確保できるようにした



芝生広場を取り囲むようにサクラと徳川吉宗がこの地区に植えたといわれるモモを配置させた回廊。秋には紅葉も楽しめる



土地の歴史を継承するケヤキが現位置保存できるように、造成計画を工夫した



作品評

この作品は、農業公園の管理運営を主体とする民間事業者に対し、公園管理運営のボトムアップを目指し、経営資源の活用策や人材育成などを行っているものである。当該企業は、農業・加工・サービス（1次・2次・3次）の6次産業に取組むモデルとして、全国10カ所の農業公園の運営を行っているが、応募者がコンサルティングすることにより、目標設定を踏まえた実行計画の作成、人材育成の目標としての資格取得、現場本位の植栽管理計画の実践、CSR活動の推奨などを行っている。
 このような民設公園、民間企業へのコンサルティングは先駆的取組みと評価でき、今後の新たな方向性も示唆するものと考えられる。

民間事業者が経営する農業公園のサービス向上作戦（公園管理運営の改善計画）

株式会社東京ランドスケープ研究所

小林 新・小林治人・羽田泰章・高橋佳祐・上田早織

株式会社ファーム 高橋憲司・渡邊秀昭・南山 勉・浅沼正彦

株式会社ファームは、昭和61年から自社所有の農業公園と指定管理や委託業務の公園を含め、全国に10カ所の公園とサービスエリアの管理運営を行っている企業です。

公園運営を約25年行っている中で、いつしか、「昨日まで続けてきた仕事を、単に今日も明日も続けているのでは」「地域との連携とは、公園が担う責任とはなにか」を考え、東日本大震災をきっかけに「公園の防災に対する使命は」、今公園は何をすべきか、将来の公園のあるべき姿は何かを考える活動を東京ランドスケープ研究所（TLA）と連携し行っています。

その内容は、①公園実務者における公園のマネジメント講習、②新たな植栽管理指針の策定と剪定技術の伝承指導、③公園管理運営士の資格取得を兼ねた講座

とワークショップの活動の実施、などです。また、「東日本に花を咲かせ隊」と連携したCSR活動等に関してもコンサルティングしています。

作品概要

作品名：民間事業者が経営する農業公園のサービス向上作戦（公園管理運営の改善計画）

依頼者：株式会社ファーム

対象地：江戸崎農業公園ポティロンの森、信州塩尻農業公園チロルの森、衣川悠久ファームとうほくニュージラランド村等

コンサルタント：株式会社東京ランドスケープ研究所
 業務目的：本業務は、主に次の3点を実現するためのコンサルティングを行うことを目的としている。

- ①企業ブランド理念「人と自然のふれあいを通して笑顔をお届けしたい」の現場での具体化
- ②現場職員の植栽管理技術の向上
- ③CSR活動の展開

業務期間：2012年6月～現在も継続中

衣川悠久ファーム
 とうほくニュージラランド村



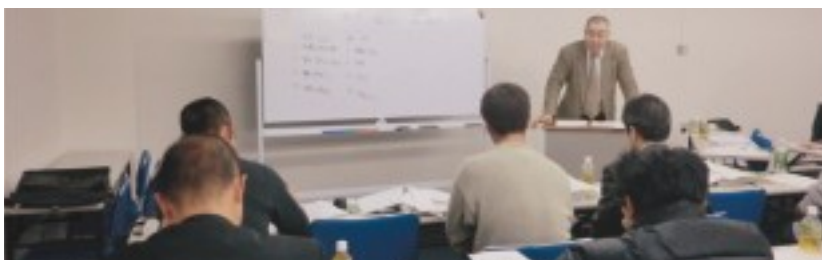
信州塩尻農業公園
 チロルの森



江戸崎農業公園
 ポティロンの森



対象地位置図



公園管理運営士資格取得講座の様子



幹部の勉強会



ファーム幹部との深夜ミーティング



ポティロンの森でのワークショップ



衣里幼稚園の園児たちと球根植え作業



チロルの森での現場指導—日本酒により回復した黒松



CLA 賞の趣旨と募集・選考のあらまし

CLA 賞選考委員長 島田 正文

CLA 賞は、会員の優れた作品や業務を顕彰し、協会内部だけでなく広く社会に紹介することを目的として設けられたもので、ランドスケープ分野のプロフェッショナルが行った仕事を、プロが評価し、優秀なものを表彰するというシステムに特徴があります。

同時に、応募者は自己が実施した業務の成果について、改めて応募資料という形に取りまとめるため、個々の業務の自己点検・評価、とりわけ品質保証の一翼を担うという面からも、大きな意義を有するものであります。

さて、2014年度のCLA賞の実施に際しましては、ランドスケープコンサルタンツ協会内に表彰委員会(技術委員会)が設置され、CLA賞の活性化等を目標に制度自体の点検・評価を行う一方で、その結果をもとにした下記の様な大幅な改定が行われました。

その成果を踏まえ、「設計」「調査・計画」「マネジメント」という3分野で応募作品を募集いたしましたところ、応募数が14社から20作品と、昨年度のほぼ倍増という結果を得ることができました。この機会をお借りし、協会の自助努力とCLA賞の意義をご理解戴き、応募下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

□ CLA 賞改革の要点 (2014年)

1. 協会内部の顕彰制度から、開かれた顕彰制度への改正

- 開かれた顕彰制度への改正として、応募資格において、これまで会員限定であったものから、非会員を含む連名での応募を可能とした。
- 選考委員会の公開性・透明性を高め、委員会メンバーに、学識者や行政実務者、関係団体等からの第三者枠を大幅に増やし、国土交通省からも選考委員を招聘することとした。
- 関係11団体の協賛をいただいた。(公財)都市緑化機構、(一財)公園財団、(一財)日本造園修景協会、(一社)日本公園緑地協会、(一社)日本造園建設業協会、(一社)日本造園組合連合会、(一社)日本植木協会、(一社)日本運動施設建設業協会、(一社)日本公園施設業協会、(一社)日本水景協会、(一社)ランドスケープアーキテクト連盟

2. 応募要件を業務形態の実情に合わせたものへ改正

- 設計部門において、応募代表者が実施設計を行っていない場合にも、協働体制の連名による応募を可能とした。
- 過去5カ年間としていた募集対象について、期間制限を廃止した。

3. 受賞によるインセンティブを向上させ明確化するための改正

- CPD単位取得需要の高まりに応じて、取得単位の例示や登録年度の選択制を新設した。
- 表彰式後の講演会開催の新設やその他の公表機会の増大により、受賞作品の社会的評価とCPD単位の取得の機会を向上させた。

以上のような経緯を踏まえ、今回応募戴いた作品は、何れの作品も力作ぞろいであり、また審査員が増えたことも含め、選考会はかなり時間を要しました。審査にあたっては10人の委員が事前に配布された応募資料に基づき、応募全作品について募集要綱に示された5つの視点(①独創性・

新規性、②社会的課題解決力、③市民・ユーザー評価、④プレゼンテーション力、⑤ランドスケープ職能への貢献度)から各視点5点満点、計25点満点として評価、集計しました。

集計結果により高得点を得た作品について上記の視点等から議論し優秀賞としました。次いで、その中から、3分野において特に高得点で優れた作品を最優秀賞として選出しました。この際、設計部門においては、甲乙付けがたい高得点を得た作品が2点存在しました。そこで、この2点については、作品それぞれが有するデザイン性および社会性という特異性を尊重し、両者を最優秀としました。この結果、最優秀賞4作品、優秀賞7作品が選ばれました。どの作品もランドスケープの設計、調査・計画、マネジメントにおいて優れた作品であり、その評価点は僅差でした。差が出た部分は、大半がプレゼンテーション部分です。コンセプトやプロセスに係わる部分が、丁寧に、かつ解りやすく表現されたものが優位に評価されました。

最後に選から漏れた作品を対象に特別賞・奨励賞を選出しました。残念ながら特別賞に該当する作品はありませんでしたが、奨励賞は3点が選ばれました。その作品は「震災復興公園」「都市再開発の拠点公園」「民設公園に対するマネジメント」といずれもCLAにとって重要な内容で、今後の展開を期待しての奨励賞となりました。

今回のCLA賞の実施にあたっては、今回の選考に関わる一連の流れや結果を踏まえつつ、より昇華を図るための検討を行う予定であり、募集要綱については適切な時期にあらためて事務局からご案内いたします。

「自分が手掛けた作品を如何にアピールするか?」この問いかけは、コンサルタントに求められる最も重要な一要素ではないでしょうか。CLA賞が単なる顕彰制度にとどまらず、ランドスケープコンサルタントの技術力向上に繋がるとともに、社会へアピールする材料として活用されることも含め、会員企業や技術者の皆様の糧となること、ひいては持続的且つ良質な地域、国土、地球環境醸成の一助になることを願って、選考結果のご報告といたします。

□ 作品の応募と選考結果

部 門	応募	最優秀賞	優秀賞	特別賞	奨励賞
設 計	14点	2点	5点	該当なし	2点
調査・計画	3点	1点	1点	該当なし	該当なし
マネジメント	3点	1点	1点	該当なし	1点
計	20点	4点	7点	0点	3点

□ 選考委員

- 委員長 島田正文 (日本大学短期大学部教授)
- 副委員長 川尻幸由 (CLA 副会長)
- 〃 斉藤庸平 (淡路景観園芸学校教授)
- 委 員 有路 信 ((一社)日本公園緑地協会副会長)
- 〃 石井ちはる (CLA 広報委員会委員)
- 〃 金子隆行 (CLA 技術委員会副委員長)
- 〃 篠沢健太 (工学院大学准教授)
- 〃 萩野一彦 (CLA 技術委員会委員長)
- 〃 藤巻司郎 ((一社)日本造園建設業協会会長)
- 〃 町田 誠 (国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長)

2014年 CLA賞 受賞技術者プロフィール

河合康之 (かわいやすゆき)

1957年愛知県生まれ。1983年東京大学大学院工学系研究科修了。同年三菱地所(株)土木部入社。㈱三菱地所設計都市環境計画部執行役員部長。技術士(建設部門)。地域開発・都市基盤施設の計画・設計監理業務、ランドスケープ関連業務に従事。



塚本敦彦 (つかもとあつひこ)

1969年生まれ。1995年京都大学大学院修士課程修了。1995年三菱地所(株)入社。現在、㈱三菱地所設計都市環境計画部主幹。



松尾教徳 (まつおみちのり)

㈱三菱地所設計都市環境計画部ランドスケープ室。1982年東京農業大学農学部造園学科卒業。ランドスケープ計画・設計・監理に従事。主な業務経歴：丸の内仲通り街路整備、丸の内永楽ビル、広尾ガーデンフォレスト1, 2, 3期、歌舞伎座、酒々井プレミアム・アウトレット、2010年ミッドオアシスタワー、パークハウス木々にてグッドデザイン賞受賞。RLA, 二級建築士, 一級造園施工管理技士。



松井章一郎 (まついしょういちろう)

1967年生まれ。1991年早稲田大学大学院修士課程修了。1991年三菱地所(株)入社。現在、㈱三菱地所設計建築設計5部担当部長。



石附 聡 (いしづきさとし)

1971年愛知県生まれ。1994年名古屋工業大学社会開発工学科卒業。2006年㈱三菱地所設計入社。現在、㈱三菱地所設計建築設計2部主幹。



佐藤琢也 (さとうたくや)

1975年東京生まれ。2000年東京理科大学大学院修了。同年、三菱地所(株)入社。現在、㈱三菱地所設計。代表作：巢鴨スポーツセンター(ゴルフ場・武道場)、成蹊大学情報図書館、成蹊小学校、興正寺境内整備(能満堂回廊・森の小径とトイレ・参拝者駐車場・八事交番)



姉齒景介 (あねはけいすけ)

1976年宮城県生まれ。2001年前橋工科大学工学部建築学科卒業。2007年㈱三菱地所設計入社。現在、㈱三菱地所設計建築設計2部主幹。



藤 貴彰 (ふじたかあき)

建築家 都市計画デザイナー。1982年兵庫県生まれ。2005年早稲田大学理工学部建築学科卒業。2007年早稲田大学大学院理工学研究科建築学専攻卒業。同年、㈱三菱地所設計入社。現在、建築設計5部兼海外設計室副主幹。受賞歴：2013年北米照明学会賞2013。2012年台北市南山人寿広場事業コンペ1位当選。2007年新宿6丁目N街区事業コンペ1位当選。2005年早稲田大学建築学科卒業設計1位。日本建築学会卒業設計作品展出品。日本建築家協会卒業設計作品展出品。



藤田久数 (ふじたひさかず)

愛知県出身。1998年(株)ソラ・アソシエイツ設立。代表取締役。国内外のプロジェクトを手掛ける。北海道(奥尻島) 南西沖地震慰霊碑・慰霊広場、山梨県立博物館、国立科学博物館、根津記念館、パレスホテル東京 etc. IES ボールウオーターベリー優秀賞、グッドデザイン賞、環境大臣賞、キッズデザイン賞 etc. 趣味：座禅。



塩井弘一 (しおいこういち)

1983年神奈川県生まれ。2007年(株)ソラ・アソシエイツ入社。毎日楽しくデザイン中。趣味は自転車と焼製。RLA取得に向けて奮闘中。主な業務経歴：JR神田万世橋ビル、国立科学博物館、理想科学工業 理想開発センター等



後藤逸成 (ごとういつなり)

1973年愛知県生まれ。名古屋造形芸術短期大学造形芸術学科ランドスケープデザインコース卒業。1995年(株)空間創研入社。主に都市公園・緑地などの計画から実施設計及び花緑イベントの企画・運営に携わり、日々、快適な空間づくりを目標とする。登録ランドスケープアーキテクト(RLA), RCCM(造園)。



荘田隆久 (しょうだたかひさ)

1972年大阪市生まれ。1994年京都嵯峨美術短期大学環境デザイン学科卒業。㈱都市環境ランドスケープを経て、2012年(株)空間創研入社。主に、集合住宅から商業や医療、教育施設など、多岐にわたる屋外空間の計画・設計・監理に携わる。登録ランドスケープアーキテクト(RLA), RCCM(造園)。CLA 関西支部幹事兼 CLA 関西支部広報委員長。



泉 崇 (いずみたかし)

1997年金沢美術工芸大学卒業。同年、(株)空間創研入社。公園緑地の実施設計を主体に、植物発生材の利活用や草地管理の調査・研究など様々な業務に携わる。「場」の特性を見つめ、時間の経過とともに心地よく魅力的なものとなる「場づくり」を目標に仕事に取り組んでいる。



福田祥子 (ふくだしょうこ)

2007年同志社大学卒業。(株)空間創研入社。主に公園や建築外構等、屋外空間の計画・設計業務に従事。CLA 関西支部広報委員。受賞作品では、現場監理に初めて携り空間をみんなで創り上げていく喜びや楽しさを身にしみて感じる事ができました。この風景が鳥取のみさんの心の片隅に残りますように！



駒井 修 (こまいおさむ)

1950年京都市生まれ。1989年(株)空間創研入社。現在、京都を中心に庭園設計の他、草花を活かした空間づくりを目指し活動している。主な設計物件：国際花と緑の博覧会「花の谷等」花壇、第11回全国都市緑化きょうとフェア修景花壇、第23回全国都市緑化おおさかフェア花づくしの庭、第27回全国都市緑化ならフェア修景花壇等。



宇戸睦雄 (うどむつお)

1960年京都市生まれ。京都芸術短期大学卒業。(株)空間創研代表取締役。1級造園施工管理技士、登録ランドスケープアーキテクト、技術士(建設部門・環境部門)、樹木医。自然環境に関わる調査、計画に従事。



山本 哲 (やまもとてつ)

1994年大阪大学環境工学科卒業後、ランドスケープコンサルタント会社に入社。神戸において阪神淡路大震災を経験し、その後、復興まちづくりを中心に、住民主体の花と緑のまちづくり推進に携わる。現在は地域の個性や景観、花緑、コミュニティを活かした、人が楽しく暮らせるまちづくりに取り組む。



趙 賢一 (ちようけんいち)

1956年生まれ。植物を基軸とする生態系の調査・解析・評価をもとに、土地の資源を読みとり、自然環境の保全ならびに活用に関わる各種の計画立案を行う。最近、大学研究機関や都市および農山村にて、学生や住民を対象に自然環境の見方やつきあひ方の講師活動も行っている。



佐藤 力 (さとうりき)

1971年東京都生まれ。1995年明治大学農学部農学科卒業。同年(株)愛植物設計事務所入社。現在、同取締役、環境調査・計画チーム長。自然環境及び希少動植物の保全・再生、自然環境の調査と保全・管理計画、街路樹や並木の保護管理計画、市民協働による公園維持管理のコーディネートなどに従事。



橋本 恵 (はしもとめぐみ)

1981年京都府生まれ。2007年高知大学理学研究科修了。同年、(株)愛植物設計事務所入社。専門分野は、植物保全生態学や植生であり、近年の主な業務として、自然環境調査、樹林管理計画策定、植生図作成、街路樹の保護管理計画に携わる。



丸山英幸 (まるやまひでゆき)

登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。1957年4月2日生まれ。1980年東京農業大学農学部造園学科卒業。CLA 関東支部代表幹事。代表作：愛宕グリーンヒルズランドスケープ設計監理、六本木ヒルズ住宅棟屋上庭園設計監理、杉並区立柏の宮公園茶室設計監理。



高林則之 (たかばやしりのりゆき)

1962年東京生まれ。東京農業大学卒業、(株)愛植物設計事務所に入社、現在に至る。主な作品は、小笠原大神山公園景観設計、神代植物公園防災設計、大蔵3丁目公園改修設計、根川緑道改修設計等多数。調査から設計・積算まで一貫した仕事をしている。



田中 康 (たなかやすし)

1982年大阪府立大学農学部緑地計画工学卒業。同年(株)大塚造園設計事務所(現(株)ヘッス)入社、公園緑地の計画、設計等に携わる。2006年より指定管理者として都市公園の管理運営に携わる。一級造園施工管理技士。技術士(総合技術監理部門、建設部門)。公園管理運営士。兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科非常勤講師。



野村はな (のむらはな)

2005年九州芸術工科大学芸術工学部環境設計学科卒業。同年(株)ヘッス入社。魅力ある空間とプログラム、仕組みをトータルで創出するコンサルタントを目指し、公園緑地の計画設計やマネジメント等に携わる。服部緑地の業務では指定管理者と共に「服部緑地パークライフ」の実現に取り組む。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。



柿谷武司 (かきたにたけし)

1950年大阪府出身。1974年大阪府立大学農学部卒業。同年4月大阪府庁入庁。2011年4月から(一財)大阪府公園協会職員として大阪府営服部緑地管理事務所所長に赴任。同年12月に服部緑地の利用促進を契機とした地域活性化に取り組むため、服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会を立ち上げた。



竹田和真 (たけだかずま)

1996年大阪府立大学大学院農学研究科修了。同年建設省入省。国営公園の設計・施工・管理、まちづくり、地域づくり、消費者行政等に携わる。2008年(財)大阪府公園協会入社。現在、指定管理者として府営公園の管理に従事。一級造園施工管理技士。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。技術士(建設部門)。公園管理運営士。



村上 章 (むらかみあきら)

1991年東京デザイナー学院スペースデザイン課環境デザイン学部卒業。2003年(株)ブレイク研究所入社。環境設計部所属。主にランドスケープ及び庭園の計画・設計・施工監理に従事。環境設計部主査。一級造園施工管理技士。



黛 卓郎 (まゆずみたくろう)

1967年東京農業大学造園学科卒業。1980年(株)ブレイク研究所入社。都市計画、地域計画、ランドスケープなどの計画・設計、史蹟・名勝等の文化財保護計画や整備計画などに従事。1995年造園学会賞受賞。技術士(建設部門：都市及び地方計画、環境部門：自然環境保全)、樹木医。



棚瀬新一郎 (たなせしんいちろう)

1984年東京デザイナー学院造園デザイン科卒業。1985年(株)ブレイク研究所入社。環境設計部所属。ランドスケープの設計・監理に従事。RCCM(造園部門)、一級土木施工管理技士、一級造園施工管理技士、登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。現在：環境設計部長代理。(一社)ランドスケープアーキテクト連盟理事。



畑 隆弘 (はたたかひろ)

1991年東邦大学理学部卒業。同年(株)ブレイク研究所入社。環境調査部所属主査。自然環境調査のうち主に動物調査・解析業務に従事。生物分類技能検定1級動物部門(哺乳類・爬虫類・両生類・鳥類)登録者。気象予報士。



仙田 満 (せんだみつる)

環境建築家。1941年横浜市生まれ。東京工業大学建築学科卒業。菊竹清訓建築設計事務所を経て1968年(株)環境デザイン研究所設立。都市、建築、造園、遊具を貫通する「こどものあそび環境のデザイン」という新しいデザイン分野を確立。代表作：猿島公園、海南市わんぱく公園、富岩運河環水公園など。



安河内泰男 (やすこうちやすお)

1973年福岡大学工学部建築学科卒業。同年(株)ブレイク研究所入社。ランドスケープ、動物園、建築等の設計等に従事。2012年まで約10年間ブレイク研究所中部事務所に勤務。その間国営木曾川公園や2005年の愛知万博等のプロジェクトを担当。現在はブレイク研究所参事、環境設計部長。技術士(建設部門)、一級建築士。



松崎 淳 (まつざきあつし)

1968年広島県比婆郡東城町森生まれ。1992年大阪大学工学部環境工学科卒業。同年(株)ブレイク研究所入社。東京、横浜、福岡の事務所を経て、現在、中部事務所。動物園や遊び場、ビジターセンターなどの建築、展示、ランドスケープの設計に従事。技術士(建設部門)。



長谷川均 (はせがわひとし)

1981年福井工業大学建設工学科卒業。同年(株)ブレイク研究所入社。現在、企画開発部次長。主にランドスケープなどの計画設計に従事。技術士(建設部門、環境部門)、登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。



剣田和良 (けんだかずよし)

埼玉県出身。1999年(株)グラク入社。美しい街並みづくりに貢献することを目指し、公園や集合住宅の屋外空間を中心として計画・実施設計を行っている。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)、一級造園・一級土木施工管理技士。



西山秀俊 (にしやまひでとし)

1992年東京農業大学造園学科卒業。2000年(株)グラク入社。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。公園緑地のマネジメント、マンション緑地再生等のコンサルティングに関わる。2009年JR荻窪駅前広場風景整備設計プロポーザル選定。時代を見据えたランドスケープアーキテクトの職能のあり方を模索し、実践することを目指して活動中。



井野貴文 (いのたかふみ)

群馬県高崎市出身。2009年(株)グラク入社。現在は「横浜市庁舎緑化整備計画・基本設計・実施設計」、「小笠原国立公園の設計」などに従事。登録ランドスケープアーキテクト (RLA)。



辻阪吟子 (つじさかぎんこ)

大阪府生まれ。1981年京都大学文学部(心理学専攻)修士課程修了。同年(株)ブレイク研究所入社。現在、取締役行政計画部部長。主に地域環境管理計画等の行政計画や、環境影響評価制度等環境施策立案に従事。技術士(総合技術管理部門：環境保全計画、建設部門：建設環境、環境部門：環境保全計画)。



村瀬俊幸 (むらせとしゆき)

愛知県生まれ。1988年筑波大学大学院修士課程環境科学研究科修了。同年(株)ブレイク研究所入社。現在、行政計画部部長代理。主に景観調査、環境影響評価業務、行政計画策定業務等に従事。技術士(建設部門)。



米塚佐世子 (よねづかさよこ)

愛知県生まれ。1999年3月信州大学理学部卒業。現在、(株)ブレイク研究所行政計画部に所属。技術士(建設部門建設環境)。地域まちづくりや自然環境保全対策検討に従事。趣味は野山やまちを散歩して、その土地の美味しいものを食べる。



小林高浩 (こばやし たかひろ)

1986年3月信州大学農学部卒業。㈱飯沼コンサルタントを経て㈱オオバ名古屋支店勤務。公園や緑地空間を舞台に、調査・計画・設計から管理運営まで「人も生きものも集いたくなる居心地の良い場所づくり」に取り組んでいる。代表作：愛・地球博記念公園「もりのゾーン」「あいちサトヲボ」、戸田川緑地、東山植物園「桜の回廊」など。技術士、RLA、公園管理運営士。



木村晃一 (きむら こういち)

1973年愛知県生まれ。中部大学建築学科卒業。建築設計、不動産開発業を経て、2009年㈱オオバ名古屋支店まちづくり計画部に勤務。主な業務分野は、公園計画・設計ならびに建築計画、ワークショップ業務。愛・地球博記念公園などを担当。趣味はまちあるき(NPO活動)と溪流釣り(お昼寝)。



松岡史展 (まつおか ふみひろ)

2003年3月に北海道大学大学院農学研究科を卒業。その後、㈱飯沼コンサルタントに入社し、2009年より㈱オオバ名古屋支店まちづくり計画部に勤務。主に公園緑地の計画・設計、ワークショップを担当。近年は国営木曽三川公園の自然体験イベント「エコパラクラブ」にも参加している。技術士(都市及び地方計画)、RLA。



小柳太二 (こやなぎ たいじ)

愛知県出身。1994年㈱オオバ入社。名古屋支店まちづくり計画部所属。都市及び地域のまちづくり構想計画、防災・減災計画、公園や駅前広場の計画設計など幅広く従事。地域の地形や歴史を読み解いてまちづくりを行うことが目標。技術士(都市及び地方計画)。趣味はビールを飲みながらの音楽鑑賞(ビートルズやナイアガラ)。



岡村郁雄 (おかむら いくお)

新潟県出身(1954年生まれ)。1979年東京農業大学農学部造園学科卒業。㈱伊藤造園設計事務所、㈱都市計画研究所、㈱自由造園設計事務所を経て日本技術開発㈱入社、現在㈱エイ日本技術開発四国支社勤務。技術士(都市及び地方計画)、一級土木施工管理技師、一級造園施工管理技師、公園管理運営士。主な業務：六甲リバーモール設計、神戸ハーバーランド広場設計、神戸震災復興記念公園設計及び工事監理等。



西上律治 (にしがみ りつじ)

1961年大阪府立大学農学部園芸農学科園芸学コース卒業、パシフィックコンサルタンツ㈱入社。マネジメント事業本部総合プロジェクト部都市・環境デザイン室長。一級造園施工管理技師、技術士(建設部門・総合技術監理部門)。公園緑地・運動施設・橋梁・護岸・道路の計画・設計、住民参加等幅広い分野に携わる。



三井亨保 (みつい へいほ)

1982年福岡県福岡市生まれ。2006年九州大学工学部地球環境工学科卒業。同年パシフィックコンサルタンツ㈱入社。技術士補、2級造園施工管理技師。主に、公園や駅前広場等の計画・設計、景観アセスメントの仕組みづくりなどに従事。



岡野郊子 (おかの さとこ)

1993年横浜国立大学卒業。同年パシフィックコンサルタンツ㈱入社。技術士(都市及び地方計画)、都市・環境デザイン室副室長。主に公園、都市景観整備、建築外構等に係る計画・設計に従事。最近ではスポーツ施設関連、大学キャンパス計画などの案件多し。



池田陽祐 (いけだ ようすけ)

2000年筑波大学社会学部都市計画専攻卒業(2002年同大学院修了)。2002年パシフィックコンサルタンツ㈱入社。都市計画・建築、歴史文化等の経験を経て都市・環境デザイン室所属。現在は施設景観・広場等ランドスケープ等の計画・設計の他、計画・建築・土木等の複合業務に従事。一級建築士、技術士(都市及び地方計画)。



頓所弘行 (とんしょ ひろゆき)

1987年東京農業大学造園学科卒業。1989年パシフィックコンサルタンツ㈱入社。ランドスケープの調査、計画、設計部門に一貫して従事。公園、緑地デザイン、環境形成計画を専門。自然、歴史、文化等の地域性や生活観のあるランドスケープを主眼。近年、東北の防災緑地計画、設計等震災復興業務に多く携わる。



新畑朋子 (にい はたとこ)

1959年広島県生まれ。1985年東京農業大学造園学科卒業。数々の転職を行い現在パシフィックコンサルタンツ㈱。主に都市公園の基本設計・実施設計に従事。技術士(都市及び地方計画)、広島女学院大学非常勤講師として、地元でランドスケープ教育を展開したいと取り組み中。



平本 圭 (ひらもと けい)

1973年福岡県生まれ。千葉大学園芸学部緑地・環境学科卒業。協和コンサルタンツを経て、パシフィックコンサルタンツ㈱に勤務。主に公園緑地の計画、設計に従事。子供や高齢者が楽しめる特徴ある公園づくりを目指しています。



吉川智子 (よしかわ ともこ)

1977年和歌山県生まれ。日本福祉大学、早稲田大学芸術学校卒業。2007年パシフィックコンサルタンツ㈱入社。公園緑地の調査や計画などに従事。



福田雅世 (ふくだ まさよ)

2004年東京農業大学地域環境科学部造園科学科卒業。パシフィックコンサルタンツ㈱入社。一級造園施工管理技師、登録ランドスケープアーキテクト(RLA)。主にランドスケープの計画・設計に従事。心に残る美しい風景や、気持ちのいい空間づくりを目指し、日々格闘中です。



西山健一 (にしやま けんいち)

1975年東京都生まれ。2000年東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻修士課程修了。2003年土木施設の景観デザインを専門とする(株)イー・イー・ユーを設立。以来同社代表。技術士(建設部門)。2008年土木学会デザイン賞奨励賞受賞。GSデザイン会議、エンジニア・アーキテクト協会会員。



中井 祐 (なかい ゆう)

1968年豊橋生まれ。1993年東京大学大学院工学系研究科社会基盤工学専攻修士課程修了。現在東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻教授。博士(工学)、一級建築士。専門は、景観論、公共空間・公共施設のデザインとまちづくり、近代土木デザイン史。主な受賞歴：土木学会デザイン賞最優秀賞、土木学会論文賞。



小林 新 (こばやし しん)

技術士(環境部門・建設部門)。日本大学生産工学部非常勤講師、公園管理運営士会企画委員、環境情報科学センター監事。デザインとは「問題解決のための手段である」「コミュニケーションの手段である」を公園緑地の現場で実践しています。



小林治人 (こばやし ひとし)

技術士(建設部門)。CLA顧問、公園管理運営士会会長、英国ランドスケープ学会名誉副会長など。1991年北村賞、1995年黄綬褒章、2007年旭日小綬章、2009年上原敬二賞。「生き物の技術」をベースに、剪定ばさみを腰に下げ、ファームの農業公園で技術の伝承中!



羽田泰章 (はだ やすふみ)

1976年東京都生まれ。2005年ワシントン州立大学農学部ランドスケープ学科卒業後、2007年㈱東京ランドスケープ研究所入社。ランドスケープ計画・設計業務に従事。これまで主に携わった業務は、エジプト東庭園工事監理(2010年東京都建設局長表彰)、浦安市運動公園実施設計業務委託など。現在設景部主任。



高橋佳祐 (たかはし けいすけ)

1984年千葉生まれ。2009年日本大学大学院建築工学専攻修士課程修了後、㈱東京ランドスケープ研究所入社。二級建築士。これまで主に携わった業務は、錦州アートエキスポの方案設計・拡初設計、(仮称)練馬区立マロン広場跡地緑地設計、計画的な公園整備のための緑地活用検討調査など。



上田早織（うへださおり）

1986年熊本県生まれ。2012年東京農業大学大学院造園学専攻修士課程修了後、㈱東京ランドスケープ研究所入社。測量士補。主にランドスケープの調査・計画に従事。趣味は緑のボランティア活動で汗を流しリフレッシュすること。多世代が集う、人々に愛される設景を目指し日々精進していきます。



高橋憲司（たかはしけんじ）

1986年より、農業公園の設計・施工監理等行ってまいりました。今回、東京ランドスケープ研究所と様々な手法・取組にて既存公園の位置付、運営管理方法を見直す活動を行う事は大変有意義です。今後も、この活動を止めることなく、常に新しい情報を取り入れ公園運営を行っていきたいと思います。



渡邊秀昭（わたなべひであき）

衣川悠久ファームとうほくニュージールランド村支配人。「とうほくニュージールランド村」は岩手県奥州市に有ります。3.11の震災時、施設の建物・園路に被害が出て約5か月間休園しました。こんな中、公園では「春の花」が咲き誇り、私たちに勇気をいただきました。この思いを胸にして、今後も「花咲かせ隊」の活動を通じて笑顔をお届けしていきたいと思ひます。



南山 勉（みなみやまつとむ）

信州塩尻農業公園チロルの森支配人。「塩尻チロルの森」は、標高1,000mに位置し、冬季雪深く、長野県塩尻市にあります。今回公園整備の作業を専門家の方とディスカッションを行い、「今、何を、どのようにすべきか」原点に戻り、一から考える活動を基本に公園整備を進めております。全国の見本公園になるように頑張っていきます。



浅沼正彦（あさぬまさひこ）

江戸崎農業公園ポティロンの森支配人。「ポティロンの森」は茨城県にある農業公園です。開園し14年がたち、公園の再活性化を図る活動として指導を受けながら「気づき」をテーマにワークショップを繰り返しています。今後、年月がたち「あじがある公園」を目指して公園の問題提起と検証、解決方法を職員一丸となって繰り返していきます。



都市公園再生プロジェクト報告

1. 都市公園再生プロジェクトの目的

都市公園再生プロジェクトは、近年の都市公園を取り巻く社会環境の変化や公共財としての役割の多様化、東日本大震災地域の復興まちづくりでの公園緑地の重要性に対する認識の高まりなどを踏まえ、今後の豊かな地域社会づくりや震災地域の防災・復興まちづくりに貢献する望ましい都市公園のあり方を提案することにより、地方公共団体に対して「都市公園再生の事業起し」を促すとともに、併せて、ランドスケープコンサルタントの職能をアピールすることを目的として企画されたものである。

2. プロジェクトの検討テーマ

このプロジェクトでは、都市公園のあり方に関する様々な課題・テーマの中から、社会的要請が高く、地方公共団体が関心を持ち、都市公園の存在価値・利用価値の向上に効率的に結びつくものとして、次の2つの検討テーマを設定している。

●検討テーマ1

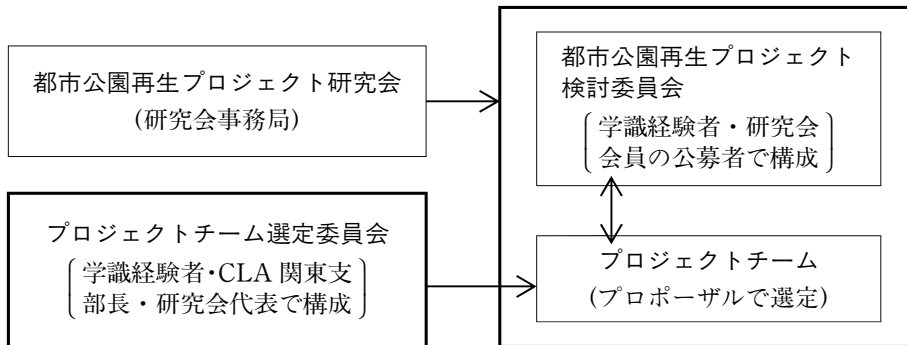
コミュニティ形成とまちの魅力を高める身近な公園（住区基幹公園）再生のあり方

●検討テーマ2

東日本大震災の復興における提案を通じた新しい公園のあり方

3. プロジェクトの推進体制

プロジェクトは、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部会員を母体として「都市公園再生プロジェクト研究会」を立ち上げ、研究会内に事務局を設けてマネジメントを行っていきこととし、以下のような体制で推進した。



4. プロジェクト推進の経過

都市公園再生 PJ 研究会設立：平成24年4月26日

都市公園再生 PJ 検討委員会設置：平成24年11月15日

実施要領公表と申込期間発表：平成25年1月30日～2月15日

説明会の開催：平成25年2月19日

提案書提出期間：平成25年3月1日～3月21日

プロポーザルの審査：平成25年4月1日

結果の公表：平成25年4月2日

委託契約の締結：平成25年5月9日

以降、都市公園再生 PJ 検討委員会を4回開催、都市公園再生 PJ 検討委員会 CLA 部会を6回開催し検討を進めています。当初の予定では、平成26年3月末までに提案書を取りまとめる予定でしたが、提案内容についてもう少し事業起こしがしやすくできるように作業を進めていますので、会員の皆様に結果をお知らせできるようになるまでもう少し時間をいただきたくお願いいたします。

都市公園再生プロジェクト研究会代表 新井 豊

コミュニティ形成とまちの魅力を高める身近な公園（住区基幹公園）再生のあり方の検討について

【検討の背景と目標】

供用中の都市公園は、設置から30年以上経過したものが現時点で約3割を占め、20年後には6割に達すると見込まれている。この間に少子高齢化が進展し、ライフスタイルの変化に伴いニーズが多様化するとともに、果たすべき防災機能も高度化している。中でも、既設都市公園数の約9割を占めている身近な公園（住区基幹公園）は、成熟型社会における地域コミュニティ再生の核として期待される存在である。にもかかわらず維持管理・補修予算が縮減されているため、施設の陳腐化・劣化・破損や植栽の荒廃が常態化し、利用度の低い公園が多く、治安面の不安や地域イメージの低下を招く例も見られる。

本検討が意図する「公園再生」は、こうした状況への対症療法的対応にとどまらず、公的不動産の戦略的マネジメントのひとつとして公園を活用し、都市の強靱化への貢献、まちづくりの目標像の具現化、都市の魅力とブランド力向上を目指すものである。魅力アップ等の主要なキーワードとして、《経済的価値向上：子どもの遊びと多世代交流・にぎわい創造・健康・癒し》《環境価値の向上：歴史・文化・美しい景観・自然環境の保全活用》等が想定される。

【成果の位置づけとまとめ方】

今後の都市公園関連業務は、新設整備から改修・リニューアル及び維持管理運営関連に重点が移行するのは明らかである。本検討の成果は、「公園再生」を起点とした関連業務誘引のきっかけとなる営業資料を意図し、以下に示すような提案内容と、都市公園の専門家であるCLAメンバーがこれを担当するメリットを示す簡単なリーフレットとして取りまとめる予定である。

なおターゲットの自治体等は規模・人口構成・産業構造・自然の骨格と土地利用等が多様であるため、具体的な営業活動については、リーフレットに興味を示してくれた顧客に対して会員それぞれが個々の技術と経験を活かして地域特性に即した独自提案を行うことを想定している。

【検討内容1：提案に向けた留意点】

地域主権第2次一括法における都市公園法の改正によって標準規模・配置・建ぺい率設定等の自由度が高くなっていくことを生かし、民間の集客施設の誘致をはじめ、地域住民等多様な主体との連携・協働やマネジメント強化も交えて、地域の潜在的な魅力や可能性を低コストで効果的に引き出す個性的な取組が目標となる。まず公園施設長寿命化を一步進めて、社会状況の変化・公園周辺の土地利用や人口構成の変化等に対応した個々の公園・施設機能を再考する。

これに加えて、都市の低炭素化の推進、人口減少社会に対応した拡散型から集約型への都市構造の再編も見据えて、多様な都市施設・公共施設等との連携による効率化・個性化、自然の骨格に沿った導入機能の特化と水と緑のネットワーク再構成（統合・廃止・再配置）等についても言及する。

【検討内容2：手順と提案概要】

- 公園個別の「評価カルテ」を作成：公園施設長寿命化計画で得られた成果の活用をベースに、各公園・各ゾーンの基礎的改善ポイント整理と導入施設の取捨選択・絞込。地域特性に沿った個性化等のプラスαの取組みに向けた《隣接施設等との一体化》や《民間活力の導入》、《多様な主体による整備管理》等を盛り込んだ再生イメージを提示する。併せて関連する先行事例と各種補助制度等の参考資料を添付。
- 地域全体の構成改善に向けた「評価マップ」を作成：地域の防災機能の向上、イメージアップと活性化に向けた重点エリアと優先順位を設定。地域の縮退やニーズの変化に即して、ネットワーク上の機能分担とシフトを整理。都市再生特別措置法等の一部改正により、「立地適正化計画」の作成が可能となり、関連補助事業が複数設定されており、公園再生についても、この動きに沿った選択と集中、および立地に即した工夫のイメージを提示する。……《個別の取組》から《連携》へ、《総花》から《フォーカス》へ。

「東日本大震災復興に関する業務実績アンケート」の結果報告

東日本大震災から3年を経て、その間にCLAの会員が復興に関する様々な業務に取り組んできています。現在も東北方面を中心として、多くのプロジェクトの動向があります。その業務の実績を把握し、CLAの広報活動や今後の展開に活用するために、昨年度、正会員を対象にした「東日本大震災復興に関する業務実績」のアンケートを実施しました。その結果、11社から回答があり、46件の業務実績の情報が集まりました。ここに結果をまとめた概要を報告します。

●アンケート結果の概要

1 業務種別

業務種別で多いのは「計画」、「調査」であり、「調査・検討・計画」の組み合わせを含めると全体の6割強となっています。昨年までは調査計画系業務の割合が高い傾向ですが、今後「設計」段階への移行が考えられます。

業務種別	件数	%
調査	8	17.4
計画	10	21.7
設計	5	10.9
検討	3	6.5
その他	0	0.0
調査・計画	3	6.5
調査・設計	3	6.5
調査・検討	5	10.9
計画・設計	5	10.9
計画・検討	1	2.2
設計・その他	1	2.2
調査・計画・設計	1	2.2
調査・計画・設計・検討	1	2.2
	46	100.0

2 実施年度

業務実施年度は、H25年のアンケートなので、H23・24年度に集中している結果となっています。

業務実施年度	件数	%
H23年度	20	43.5
H24年度	18	39.1
H25年度	6	13.0
H24年度・H25年度	2	4.3
	46	100.0

3 対象地域

業務の対象地域は、「宮城県」が最も多く全体の半数を占め、次は「岩手県」が約2割という結果でした。また、複数の県域を対象とした業務が2割弱を占めており、3県以上の国土レベルに匹敵する広域的な業務も特徴としてあげられます。

業務対象地域	件数	%
青森県	0	0.0
岩手県	10	21.7
宮城県	23	50.0
福島県	1	2.2
その他	4	8.7
青森県・岩手県・宮城県	2	4.3
岩手県・宮城県・福島県	1	2.2
青森県・岩手県・宮城県・福島県	5	10.9
	46	100.0

4 受託種別

受託種別は、「元請」が全体の8割を超えている結果となりました。

受託種別	件数	%
元請	39	84.8
下請	7	15.2
その他	0	0.0
	46	100.0

5 発注者

業務の発注者は、「国」が約4割、次に「市町村」が約3割、残り「県」及び「その他」が同数という結果でした。「その他」の内訳は、コンサルタント、管理組合などです。

発注者	件数	%
国	18	39.1
県	7	15.2
市町村	14	30.4
特殊法人	0	0.0
ゼネコン	0	0.0
その他	7	15.2
	46	100.0

6 発注方式

発注方式は、「競争入札」、「随契」、「プロポ」が約3割ずつで偏りがない傾向ですが、「総合評価」方式は少ない結果となっています。

発注方式	件数	%
競争入札	14	30.4
総合評価	3	6.5
プロポ	13	28.3
随契	14	30.4
その他	1	2.2
無回答	1	2.2
	46	100.0

7 震災復興に関する業務について、CLAへの意見

震災復興に関する業務及びアンケートに対するCLAへの意見をまとめると、次の3点があげられます。

- 1) 区画整理事業の公園緑地の計画設計において、土木系コンサルタントとの連携をもっと図るべきである。
- 2) 津波浸水区域を非居住区域として公園緑地にするケースが多く都市公園配置の偏重が生じるので、実情に即した新たな指標・制度が必要である。
- 3) JVで業務を受注しており、業務全体についての記述や内容公開はできない。

なお、アンケートは以上の他に、業務名称・受託金額・会社名等の回答がありましたが、情報の取り扱い上、掲載はしません。

今回、アンケートを行ったことで、震災復興に関する初期段階の業務の実態をある程度把握できたのではないかと考えます。業務種別や対象地域などを見ると、多方面にわたる業務に取り組んでいることがわかります。今後も、復興に向けてCLAの職能として何ができるのかを考えて行動するために、アンケートの結果を基礎資料として役立ててもらえれば幸いです。

最後に、アンケートにご協力下さった皆様に感謝申し上げます。

□ JLAU と共同で講演会・トークセッションを開催

平成25年6月17日、かでの2・7（道民活動センター）において、ランドスケープアーキテクト連盟（JLAU）と共同で「ランドスケープアーキテクトの可能性を語る」をテーマに講演会とトークセッションを開催しました。JLAU 会長の蓑茂寿太郎氏による「国土の再デザインと RLA, そして JLAU」, JLAU 常任理事の戸田芳樹氏による「ランドスケープイニシアティブ～職能と可能性～」についての講演の後、JLAU 事務局長の高橋靖一郎氏から JLAU の活動報告がありました。その後、高野文彰氏（IFLA ジャパン会長）の司会で、内倉真裕美氏（ガーデンアイランド北海道副理事長）、金清典広氏（CLA 北海道支部副支部長）、木村篤氏（元北海道庁）、四宮繁氏（北海道造園緑化建設業協会理事）、三浦康暢氏（宮ノ丘幼稚園園長）、山本光子氏（㈱電通北海道営業推進部長）が参加し、「ランドスケープアーキテクトに期待する!!」をテーマにトークセッションを行いました。様々な分野から104名の参加があり、会場からも発言が相次ぐなど、熱気に溢れる催しとなりました。



□ 日本造園学会北海道支部大会を共催

平成25年10月5日に北海道大学学術交流会館において開催された日本造園学会北海道支部大会に共催として参加しました。研究・事例報告会、ポスターセッション・学生セッション、学生デザインワークショップ成果報告、シンポジウムが行われました。シンポジウムのテーマは、「パークマネジメントのこれから」です。金岡省吾氏（富山大学）、庵原英郎氏（札幌市公園緑化協会）、吉元美穂氏（NPO 登別自然活動支援組織モモンガくらぶ）をパネリストに、市村恒士氏（室蘭工業大学）がコーディネートし、示唆に富む新たな視点満載のシンポジウムとなりました。10月8～13日の期間で、札幌市地下歩行空間において、北の造園遺産のパネル展も開催しました。

□ 北海道バラ庭園観賞バスツアーを共催

地域活性化への寄与を目指した NPO 法人ガーデンアイランド北海道の活動支援の一環として、平成25年7月19日にバラ庭園観賞バスツアーを共催しました。バラサミットが開

催された「いわみざわ公園」、最近注目されている「ローズガーデンちっぷべつ」、人気の高い「月形コテージガーデン」を巡るバスツアーには、園芸愛好家約40名が参加しました。



□ 発注機関との意見交換、関係機関・団体との連携

平成25年度に行った主な活動は以下のとおりです。

4月18日：北海道造園緑化建設業協会「北海道における法面自然回復の可能性と課題についての共同勉強会」、5月9日：北海道立総合研究機構林業試験場「街路樹の造成マニュアル、樹木の腐朽診断装置についての意見交換」、6月12日：札幌市「公園施設長寿命化計画についての意見交換」、10月10日：北海道緑化樹情報連絡会議、10月19日：北海道造園懇話会「北の造園遺産の認定施設及び屋上緑化・壁面緑化の見学会」、11月15日：北海道立総合研究機構林業試験場「樹木の腐朽診断装置の現地検討会」、1月7日：北海道造園懇話会「定期総会、新年の集い」、1月15日：北海道造園緑化関係団体連絡協議会「新年交例会」など。

□ 住民参加型業務内容・標準作業量 改訂版を作成

北海道支部独自に作成して道内自治体に配布していた「公園設計のための住民参加型業務の標準業務内容と標準作業量」について、北海道建設部土木事業委託積算基準改定（平成24年10月）に伴う改訂を行い、平成25年4月15日付で発行しました。

□ 技術委員会活動

平成25年度は、佐藤俊義委員長（北海道造園設計㈱）を中心に、「パークマネジメント研究」と「ふりかえりのランドスケープ（札幌市都市景観賞受賞作品の振り返り）」に取り組みました。特に、1月10日には室蘭工業大学建設社会基盤系学科准教授の市村恒士氏を講師に招き、パークマネジメントの事例を参考としながら活発な意見交換を行いました。話題は、今後の持続可能な地域づくりのあり方にまで広がり、企業の取り組みが盛んになると想定される戦略的 CSR とはどのようなことか、その活動を緑化や公園管理などに結び付けることはできないかなど、大変広範囲な議論が行われました。今後も支部会員職員の研鑽に努めて活動していく予定です。

□平成25年度 支部連絡会議の開催

東北支部では、平成25年11月28日(木)～29日(金)にかけて支部連絡会議が開催され、各支部から17名の参加がありました。現地視察では、被災地の復興状況の視察と被災者から復興に対する話を直接伺いました。会員にとっては行政側からの情報が主で被災者の声を聞くことは少なかったため、この様な機会を得たことは有意義な視察であったと思われます。東北支部としては、これを機に大浜地区などの復興地域に足を運び地域づくりに積極的に参加していきたいと考えています。

□千年希望の丘第1号丘

減衰や避難地等の機能を有する防災公園として15カ所の丘が計画されている。第1号丘を登ってみた。モニュメントの表現するものは何か、宮脇方式による植栽方法等について話し合った。



頂上のモニュメント



宮脇方式による植栽

□岩沼海浜緑地

都市公園岩沼海浜緑地(南ブロック)

災害復旧工事として再整備中の公園を設計担当した(株)ドーコン森田課長の案内で視察した。災害復旧公園の整備のあり方等学ぶ。



森田氏による整備状況の説明



災害復旧工事で整備した箇所

□荒浜地区復興現状

まず、荒浜地区の慰霊碑に献花(村岡関東支部長)を行った。続いて、荒浜地区の漁師(赤貝漁)佐藤さんから現状と荒浜に対する思いを語ってもらった。また、荒浜再生を願う会の貴田さんより荒浜地区での歴史について語ってもらった。



被災者の声を聞く



荒浜地区の歴史を学ぶ

□サン・ファン館

サン・ファン館外溝と、立地条件による災害の影響についてランドスケープとは、立地(あるがままのすがた)を基本とすることを忘れかけていた。



外溝



殆ど被災しなかった港

□石巻・門脇地区

門脇地区でも、まず献花(吉田中部支部長)してから地元ボランティアガイドの佐立さんから門脇地区を案内していただき、地元の復興の問題点や苦労話を説明してもらった。



地元ボランティアガイドの説明



被災した門脇小学校

□支部連絡会議

各支部からの活動報告の後、活発な意見が交わされた。その後に行われた懇親会には、(株)東京ランドスケープ研究所、佐々木東北事務所長代理が特別参加した。



防災・減災中心の基本方針が一段落した今



震災から3年経過し、防災・減災中心の基本方針が一段落した今、復興に対する考え方も少しずつ変わってきているようである。安全性を最優先しながらも、美しい郷土づくりが求められている。その基本となるランドスケープ(景観・景域)を担う我々の役割は多大なものであり、その窓口として東北支部の体制を整えたいと思っている。

□ 支部総会の開催

平成25年4月25日、CLA 会議室において支部総会を開催しました。支部役員から平成24年度事業と収支決算の報告、平成25年度の事業計画（案）と収支予算（案）の説明があり、満場一致で会員の承認を受けました。



□ 2020年東京オリンピック招致支援特別講演会の開催

平成25年7月2日に日比谷図書館コンベンションホールにて、『2020年東京オリンピック招致に向けて、造園界はいま何ができるか～安全・環境共生・健康生活の先進モデル都市東京を世界にアピール～』と題して特別講演会を開催しました。多数の造園関係諸団体の後援・共催のもとに約150名の参加者を得て、元東京都副知事・明治大学大学院教授 青山侑氏、東京都スポーツ振興局招致推進部施設計画担当部長 福田至氏、東京農業大学名誉教授 進士五十八氏にご講演いただき、「ランドスケープ宣言2013」を発表しました。また、開催記録を報告書にまとめ、関係機関に配布しました。



□ 技術発表会の開催

平成25年7月19日に、一造会との共催で、清澄庭園大正記念館において技術発表会が開催されました。「最新の屋上・壁面緑化と維持管理～造園技術者のヒートアイランド対策～」をテーマに技術発表及び意見交換が行われました。

□ U-39若手造園技術者の語る会の開催

平成25年10月25日に、日比谷公園緑と水の市民カレッジにおいて、一造会と共催で「U-39若手造園技術者の語る会」が開催されました。約40名の若手技術者が参加し、同じ造園界で働く同世代の若者同士で様々な思いを語り、親睦を深めました。

□ 支部情報誌「みどりの手帖」の発行・配布

平成25年9月に『都市観光とランドスケープ』を特集した「みどりの手帖」Vol.13を、平成26年1月に『2020年東京オリンピックとランドスケープ』を特集したVol.14を発行し、自治体や関連団体等へ配布しました。

□ ビジョンセミナーの開催

関東支部では、ランドスケープ技術の新しい方向性を探り、情報交換と交流を深める機会として「CLA 関東支部ビジョンセミナー」を開催しています。

本年度の第1回ビジョンセミナーは、平成25年11月8日に87名が参加し「国際水準のランドスケープ創造に向けて」と題して、日比谷公園緑と水の市民カレッジにて、ランドスケープ界を横断的に語る講演とパネルディスカッションを行いました。

第2回ビジョンセミナーは、平成25年12月6日に「若手造園技術者交流会～建替が行われた赤羽台団地をケーススタディとして今日的な課題への造園技術者としての対応を考える」と題して、発注者（UR 都市機構）、設計者（CLA）、施工者（全国1級造園施工管理技士の会：一造会）の若手技術者34名が参加し、意見交換を行いました。

□ 発注者との意見交換会の開催

東京都及びUR 都市機構との意見交換会を開催しました。

□ 東京都若手職員の技術研修会への講師派遣

平成26年2月27日、都立野川公園管理所会議室、都立武蔵野公園において行われた技術研修会へ一造会と協働で講師を派遣し、講義及び現地講習を行いました。



造園をとりまく環境は、ここ数年大きく変化しています。“ハードからソフト”“コンクリートから人へ”“造る時代からストック活用の時代へ”，言葉はいろいろですが、もの（公園、緑、環境）を充足させる時代から、いかに活用し使うかという時代に進みつつあるのは確かであり、そのニーズに応えるためには、造園に係る様々な専門分野の方々との協力や、連携が必要だと考えています。

□ 技術講演会の開催 〈シンポジウムの共催〉

平成25年9月9日(月)に、日本造園学会関西支部、大阪都市公園協議会との共催で、ニューヨークからランドスケープ研究財団理事長であり初代セントラルパーク管理官兼管理財団理事長であるエリザベス・バーロー・ロジャーズ女史を招聘し、「セントラルパーク 奇跡の復興プロジェクトと公園経営」と題してシンポジウムを開催しました。コーディネーターは若生謙二大阪芸術大学教授、パネラーには小河保之大阪府副知事や進士五十八東京農業大学名誉教授、赤澤宏樹兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授にご参加いただきました。



当日は、270席の大阪歴史博物館講堂が満席となり、立ち席でご参加いただいた方も大勢いらっしゃいました。

□ 技術研修、造園他分野との交流 〈街角サロン〉

街角サロンは、みどりの分野に興味のある者が集い、庭園や公園施設の見学をはじめ、植物の圃場見学、自然やみどりの勉強会などを通じて、みどりに関する意見交換や交流を深め、次世代の技術者育成とランドスケープ界の発展につなげていくことを目的として、植木協会や公園施設業協会等と連携して企画、開催しています。

平成25年度は10月19日(土)に、樹木勉強会「圃場・生産者見学会(グランドカバー)」を篠山市において開催し、約10名の参加者がありました。



□ みどりに対する活動表彰 〈みどりのまちづくり賞〉

この賞は、大阪府、花と緑の博覧会記念協会との共催により、みどりによる美しいまちづくりに取り組みされている方々の作品や活動を表彰することで、身近なみどりやまちづくりへの関心を高め、さらには大阪のランドスケープ分野の発展を目指しています。

平成25年度は、デザイン部門17作品、マネジメント部門10活動の応募があり、デザイン部門三賞と、デザイン部門奨励賞2点、マネジメント部門奨励賞3点が受賞されました。

また、平成25年11月23日(祝・土)の授賞式には二見恵美子京都光華女子大学客員教授による記念講演会「一苗から始まるみどりの街づくり」を開催しました。



大阪知事賞
「大阪木材仲介会館」



国際花と緑の博覧会記念協会会長賞
「コマツ製作所大阪工場コマツ里山」



ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部長賞
「ブランズシティ都島友測町」



□ みどりに関する広報活動 〈ランドスケープカンサイ〉

関西支部の活動報告を中心に、みどりやランドスケープに関する情報を広く提供する機関紙として「ランドスケープカンサイ」を発行しています。平成25年度は、102号から104号までの3号を発行しました。また、支部ホームページのランドスケープに関する情報、会員・賛助会員・協力会社の紹介などを行っています。

平成26年度の活動計画

平成26年度は、これまでの支部活動を継続しつつ、会員の皆様や市民、行政の方々からのご意見やニーズにお応えできる支部活動を目指していきたくと考えています。

□ 『福博花しるべ』花壇出展

平成25年4月6日(土)～4月14日(日)

会場：福岡市天神警固公園

主催：福岡市，(公財)福岡市緑のまちづくり協会



庭造り参加メンバー前列左から、大杉、米田、堤、後列左から村武、武林、鬼頭、中村、勝野
(アーバンデザインコンサルタント、総合設計研究所、第一復建、緑景森緑地設計事務所)

□ 九州緑化協議会

国交省九州地方整備局，造園建設業協会，植木協会，公園施設業協会，ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部の5者で構成する，九州緑化協議会の活動を行っている。今回のテーマは，九州の街路樹の再生とし，国交省九州地方整備局への提案を取りまとめ緑化懇談会において発表を行った。今後，デザイン，施工のフィールドを提供いただき，街路樹再生のモデル施工を試行する予定である。



□ RLA 試験（九州会場）協力

平成25年9月8日(日)にRLA 試験(九州会場)を実施した。試験会場は，(株)アーバンデザインコンサルタントにご協力いただいた。

□ グリッピーキャンペーン後援，出展

平成25年10月19日(土)・20日(日)

会場：福岡市天神中央公園



ゾーブを出展，子供たちに大人気

□ 日本造園学会九州支部大分大会後援

平成25年11月1日(金)，2日(土)

大分市で開催された，日本造園学会大分大会の後援を行い，大会に出席した。

□ 日本造園学会・平成26年度全国大会企画協力(進行中)

平成26年5月23日(金)～25日(日)に開催予定の全国大会に向けての企画・準備に参加，特に「学生アイデアコンペ」の運営に協力している。

□ 釜山広域市姉妹都市庭園出展協力

福岡市の姉妹都市の釜山市より福岡市に庭園の出展依頼があり，九州支部を中心に計画，設計を行い，6月開園へ向けて工事が進んでいる。

福岡市造園建設業協会，福岡市役所と協働し西日本短期大学の学生とワークショップにより計画案の作成及び現地での庭造りの交流も行った。



□ 九州ランドスケープセミナー開催

平成26年1月10日(金)九州ランドスケープセミナーを開催し，産，学，官の各分野から80名が参加し盛況であった。『都市の中の水辺』～水辺がつなぐ，まち，みどり，ひと～をテーマとし熊本大学 政策創造研究教育センターの田中直人准教授に話題提供の講演をいただいた他，5名のパネリストと参加者による意見交換を行った。



□ 「福岡のランドスケープを頑張りたい人の同好会」開催

福岡のランドスケープを頑張りたい人の同好会(通称：FD)を主催し，活動を行っている。平成25年5月より毎月第2金曜日(18：30～20：30)に開催。コンサルタントの若手職員で企画運営を行っているが，コンサルタントだけでなく，行政職員，大学関係者，建設業，施設業及び学生等，造園に興味のある人が自由に参加する会。(参加費：一般1,000円，学生500円)

平成26年3月31日(月)15：30～17：30に，九州ランドスケープセミナー『特別企画』として，「造園家に求められる資質」というテーマで若手中心の運営参加で実施した。会場は，西日本短期大学のご協力により教室を利用させていただいた。運営共催団体は以下のとおり。

- (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部
- 福岡のランドスケープを頑張りたい人の同好会
- (一社)ランドスケープアーキテクト連盟
- 西日本短期大学緑地環境学科

ゲストティーチャーは，九州芸術工科大学名誉教授 杉本正美先生，(一財)公園財団理事長 蓑茂壽太郎先生を迎え，若い技術者，学生を中心に意見交換を行い，盛況に終了した。



RLA 資格制度の改定について

登録ランドスケープアーキテクト（略称 RLA）資格制度は、発足より10数年が過ぎ、昨年度は資格認定試験も10回目を数えました。これも、皆様方のご高配やご協力の賜物と、厚く御礼申し上げます。また、昨年度は RLA 資格保持者個人の会である「日本ランドスケープアーキテクト連盟（略称 JLAU）」が発足しました。

ランドスケープコンサルタンツ協会（略称 CLA）の一般社団法人への移行に伴い、「RLA 資格制度」が内閣府より公益事業に認定されたことにより、従来、RLA 資格制度総合管理委員会の元にあった事務局ならびに運営母体を、CLA 内の正式な組織として位置付け、今後、運営していくこととなりました。

あわせて、10年間の運用により生じた様々な事項に適合するように、この度、下記のように、RLA 資格制度の改定を行うこととなりました。

- CLA 内の常任委員会として「RLA 資格制度運営委員会」を新たに創設した。
 - RLA 資格制度は CLA の公益事業であり、これを運営する「RLA 資格制度運営委員会」を CLA 内の常任委員会として新設した。
 - また、CLA 内に「RLA 資格運営事務局」を設置した。
- CLA 会長が委嘱する各委員会等の機関の役割と位置づけを、実態に照らして明確化した。
 - 「総合管理委員会」の下に設置されていた下記分科会等を、CLA 会長の下に置いた。
 - 「試験問題作成分科会」：試験結果の採点も扱っていたが、これについては別途「採点分科会」を設置した。
 - 「試験実施分科会」：廃止し、CLA 会長の下に設置される「運営事務局」ならびに「試験実施本部」で役割を担うこととした。
 - 「総務委員会」：廃止し、CLA の常任委員会として新規に設置する「運営委員会」でこの役割を担うこととした。
 - 「教育分科会」は実質的には設置されていなかったため、総合管理委員会全体でこの役割を担うこととした。
- 各委員会の職務等を、以下の概要のとおり明確化した。
 - 総合管理委員会
 - 以下の審議及び CLA 会長への答申
 - RLA 資格制度に関する重要事項
 - その他会長より諮問を受けた事項
 - 以下の決定及び CLA 会長への報告
 - 受験資格の基準
 - 試験の可否判定基準
 - RLA フェローの資格認定
 - 登録等資格の判定基準
 - 専門教育等の認定基準
 - 試験統括委員会
 - 以下の決定及び CLA 会長への報告
 - 試験問題
 - 模範解答
 - 試験の配点と採点基準
 - 試験検定委員会
 - 以下の決定及び CLA 会長への報告
 - 可否の決定
 - CLA 内機関
 - 上記委員会の運営に関する事項
 - 予算の執行に関すること
 - 試験の実施及び登録等の実務に関すること
 - 教育・普及に関すること
 - その他会長より諮問を受けた事項
 - 実働機関
 - 試験問題作成分科会
 - 試験問題案、模範解答案の作成
 - 試験の配点・採点基準案の作成
 - その他会長より諮問を受けた事項
 - 試験実施本部及び試験場本部
 - 試験の実施
 - 試験採点分科会
 - 試験答案の採点
 - その他会長より諮問を受けた事項
- 以上の各機関の名称を、次の考え方で統一・整合化させた。
 - RLA 資格制度全般を所掌する機関には、冒頭に「RLA 資格制度」を付与する

- ・ RLA 資格認定試験に関する職務を担う機関には、冒頭に「RLA 資格認定試験」を付与する。

5. 新たに「RLA 補」及び「RLA フェロー」の資格を追加した。

- ・ 「RLA 補」：ランドスケープに関する基礎的な知識を有し、RLA が実施する業務を補助できる知識と能力を持つ者
- ・ 受験資格は問わない
- ・ 一次試験(従来の試験セクション 1 及び 3：択一試験)に合格した者が RLA 補となる資格を有する
- ・ 「RLA フェロー」：RLA 資格制度の発展や後進の指導に寄与してきたと認められ、RLA と同等以上の知識、技術、能力を有していると認められる者
- ・ RLA 2 名以上の推薦に基づき、総合管理委員会での審査を踏まえ会長が認定

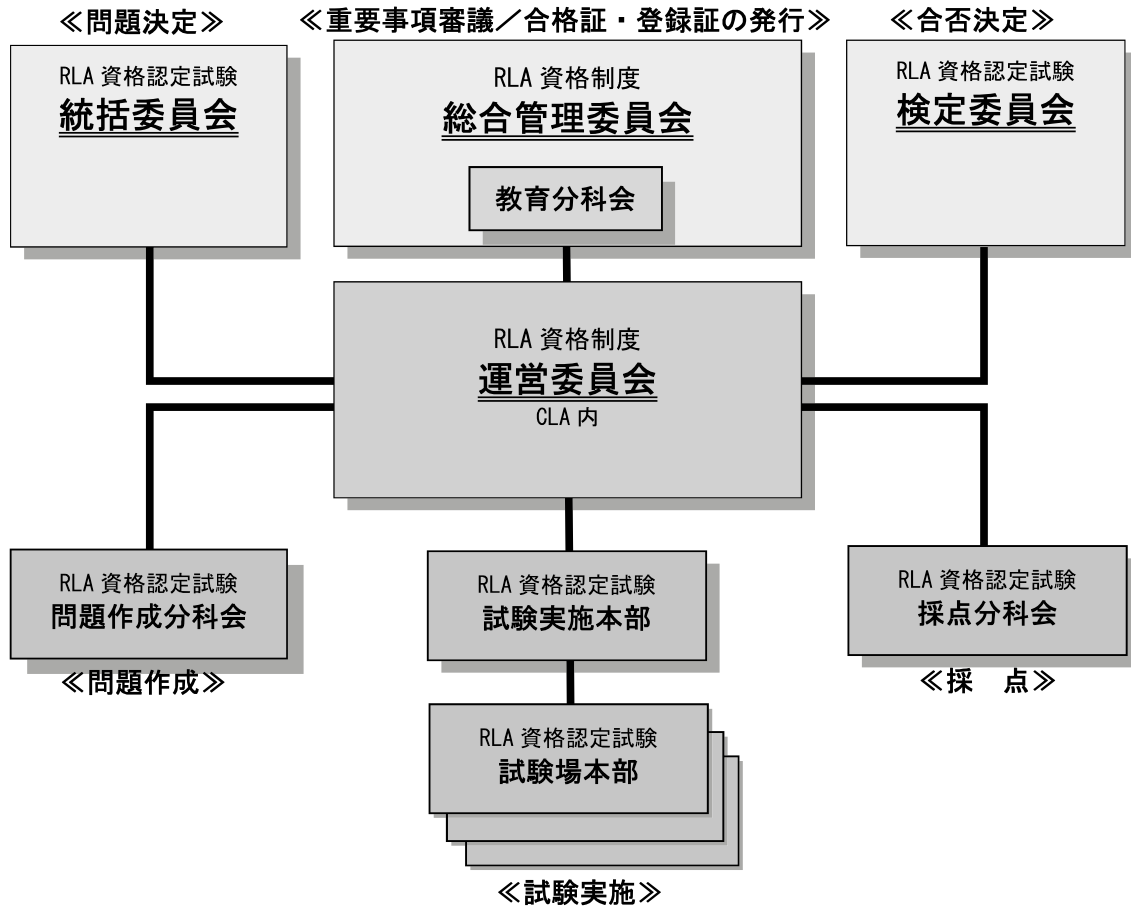
6. 試験は、以下の編成に変更した。

- (1)一次試験：従来のセクション 1 及び 3 を合体し、一体

- として審査し合否を判定
- (2)二次試験：従来のセクション 2 及び 4 を、二次試験①、二次試験②とし、それぞれについて合否判定を行い、合格証を発行する。
- (3)一次試験及び二次試験①と②の合格証をもって、RLA の資格登録ができることとした。(従来は個々の合格証に有効期限(3年間)があったが、今後は無期限とした)

7. 以上により、規程・規則類は以下のような構成とした。

- (1)RLA 資格制度 実施規程
- ・ RLA 資格制度に関わる基本規程
 - ※従来の「RLA 資格制度登録規則」及び「RLA 資格制度登録更新細則」を合体化
- (2)RLA 資格制度 総合管理委員会規則
- (3)RLA 資格認定試験 事務規則
- ※従来の「RLA 資格制度認定試験事務細則」を合体化
- (4)RLA 資格認定試験 統括委員会規則
- (5)RLA 資格認定試験 検定委員会規則



一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会会員名簿

平成26年4月現在

◎：会長 ○：副会長 ◇：理事 □：監事

正会員（五十音順）						
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号	
(株)アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	山口 隆 康	160-0022	新宿区新宿1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018	
(株)アーバンデザインコンサルタント	092-482-8001	◇大杉 哲 哉	812-0011	福岡市博多区駅前2-12-26 福岡 D ビル	092-482-8021	
(株)愛植物設計事務所	03-3291-3380	趙 賢 一	101-0064	千代田区猿楽町2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381	
(株)あい造園設計事務所	03-3325-6660	細 谷 恒 夫	168-0063	杉並区和泉3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262	
朝日航洋(株)	03-3522-7161	八 木 鋼 治	136-0082	江東区新木場4-7-41	03-3522-7162	
(株)荒木造園設計	0727-61-8874	荒 木 美 眞	563-0024	池田市鉢塚2-10-11	0727-62-8234	
(株)荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	長谷山弘志	730-0831	広島市中区江波西1-25-5	082-294-3575	
(株)エイト日本技術開発	03-5385-5111	○川 尻 幸 由	164-8601	中野区本町5-33-11 中野清水ビル	03-5341-8520	
(株)エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津 田 主 税	530-0014	大阪市北区鶴野町4-11-1106	06-6373-4617	
(株)LAU 公共施設研究所	03-3269-6711	山 本 忠 順	162-0801	新宿区山吹町352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715	
(株)オオバ	03-3460-0127	◇萩 野 一 彦	153-0042	目黒区青葉台4-4-12-101	03-3467-8160	
(株)環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	田 中 行 雄	101-0041	千代田区神田須田町2-6-5 OS' 85ビル	03-5209-3696	
環境設計(株)	06-6261-2144	井 上 芳 治	541-0056	大阪市中央区久太郎町1-4-2	06-6261-2146	
(株)環境設計研究室	03-5401-3900	納 谷 和 親	105-0001	港区虎ノ門5-3-2 神谷町アネックス	03-5401-3905	
(株)環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐 藤 文 昭	106-0032	港区六本木5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928	
(株)環境緑地設計研究所	078-392-1701	松 下 慶 浩	650-0024	神戸市中央区海岸通2-2-3 サンエービル	078-392-1576	
(株)環研究所	06-6306-2481	大 石 博	532-0011	大阪市淀川区西中島6-8-20 花原第7ビル	06-6303-8614	
キタイ設計(株)	0748-46-4902	梶 雅 弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦1030	0748-46-5620	
(株)空間創研	075-353-6337	□宇 戸 睦 雄	600-8239	京都市下京区東堀川通下魚ノ棚下る鍛屋町23番地 シンエイ堀川ビル	075-353-6338	
(株)グラック	03-3249-3010	◎枝 吉 茂 種	103-0004	中央区東日本橋3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685	
(株)KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央3-33-23	026-254-7301	
(株)景観設計研究所	06-6535-0175	山 田 直 樹	550-0012	大阪市西区立売堀1-2-14 本町産金ビル	06-6535-0176	
(株)景観プランニング	028-650-3030	石 松 良 介	320-0036	宇都宮市小幡1-3-16	028-650-3034	
(株)建設環境研究所	03-3988-1818	浦 川 雅 太	170-0013	豊島区東池袋2-23-2	03-3988-2018	
サンコーコンサルタント(株)	03-3683-7152	有 賀 一 郎	136-8522	江東区亀戸1-8-9	03-3683-7116	
(株)新日本コンサルタント	076-436-2111	西 田 宏	930-0142	富山市吉作910-1	076-436-2260	
(株)スペースビジョン研究所	06-6942-6569	安場浩一郎	540-0012	大阪市中央区谷町2-9-3 ガレリア大手前ビル	06-6942-6897	
(株)ZEN 環境設計	092-643-5500	中 村 久 二	812-0053	福岡市東区箱崎1-32-40	092-643-5520	
(株)爽環境計画	03-3829-4691	木 村 隆	130-0013	墨田区錦糸3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692	
(株)総合計画機構	06-6942-1877	濱 口 和 雄	540-0012	大阪市中央区谷町2-2-22 NS ビル	06-6942-2447	
(株)総合設計研究所	03-3263-5954	木 村 弘	102-0072	千代田区飯田橋4-9-4 飯田橋ビル1号館	03-3263-7996	
創和エクステリア(株)	045-662-8028	風 間 伸 造	231-0002	横浜市中区海岸通4-23 マリンビル	045-662-8664	
第一復建(株)	095-557-1300	畠 山 美 久	815-0031	福岡市南区清水4-2-8	092-557-2110	
大日本コンサルタント(株)	048-988-8114	伝 谷 恵 一	343-0851	越谷市七左町5-1	048-988-8184	
高野ランドスケーププランニング(株)	0155-42-3181	金 清 典 広	080-0344	河東郡音更町字万年西1線37番地 旧チネル小学校	0155-42-3863	
玉野総合コンサルタント(株)	052-979-9111	◇吉 田 勇 次	461-0005	名古屋市東区東桜2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112	
(株)地域計画建築研究所	06-6942-5732	畑 中 直 樹	540-0001	大阪市中央区城見1-4-70 住友生命OBP プラザビル	06-6941-7478	
(株)地球号	06-6945-7566	中 見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー	06-6945-7595	
中央コンサルタンツ(株)	052-551-2541	藤 本 博 史	451-0042	名古屋市西区那古野2-11-23	052-551-2540	
(株)東京ランドスケープ研究所	03-5919-2288	佐 々 木 亨	160-0022	新宿区新宿2-6-4 KN 新宿ビル	03-5919-2290	
(株)ドーコン	011-801-1535	◇大 塚 英 典	004-8585	札幌市厚別区厚別中央1条5-4-1	011-801-1536	
(株)都市環境ランドスケープ	06-6946-9588	波 多 野 芳 紀	540-0037	大阪市中央区内平野町1-3-7 ベルヴォア内平野	06-6946-9747	
(株)中根庭園研究所	075-465-2373	中 根 史 郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町1-6	075-465-2374	
(株)都市計画研究所	03-3262-6341	佐 藤 憲 璋	103-0014	中央区日本橋蠣殻町2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924	
(株)虹設計事務所	03-3419-7259	光 益 尚 登	154-0023	世田谷区若林1-1-18	03-3419-7246	

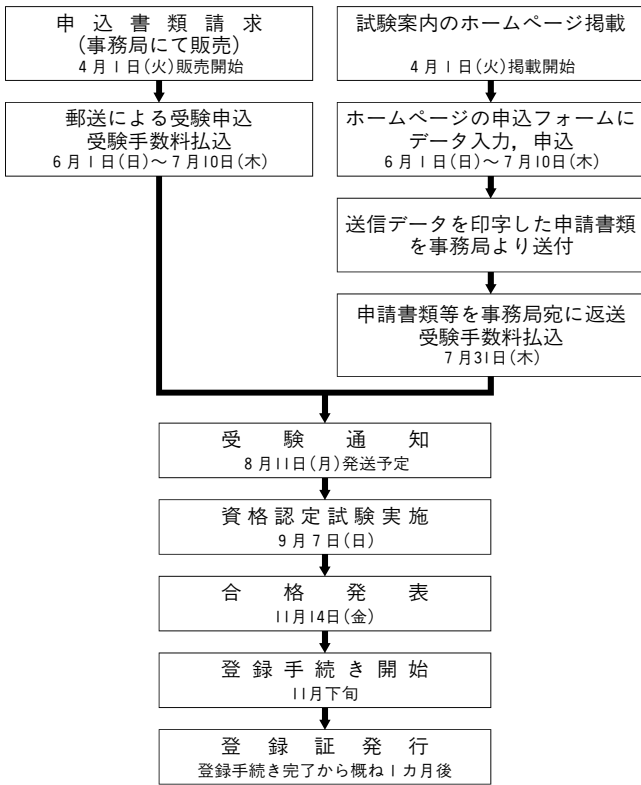
会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
(株)日本総合計画研究所	03-3254-9668	星野 嘉 郎	101-0047	千代田区内神田3-2-1 栄ビル	03-3254-6714
(株)ニュージェック	06-6374-4032	堀内 康 介	531-0074	大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-5147
パシフィックコンサルタンツ(株)	042-372-6530	西上 律 治	206-8550	多摩市関戸1-7-5	042-372-6349
(株)フジランドスケープ	03-5719-2919	新井 豊	141-0031	品川区西五反田3-8-17 宮野ビル302	03-6410-8135
(株)復建技術コンサルタント	022-262-1234	岩 渕 善 弘	980-0012	仙台市青葉区錦町1-7-25	022-265-9309
復建調査設計(株)	082-506-1853	来山 尚 義	732-0052	広島市東区光町2-10-11	082-506-1890
(株)ブレック研究所	03-5226-1101	○前澤 洋 一	102-0083	千代田区麴町3-7-6 麴町 PREC ビル	03-5226-1112
(株)ヘッズ	06-6373-9369	◇中西 広 樹	530-0022	大阪市北区浪花町12-24	06-6373-9370
北海道造園設計(株)	011-758-2261	及川 涉	060-0807	札幌市北区北7条西2-6 山京ビル	011-709-5341
(株)ポリテック・エイディディ	03-6222-8912	徳丸 秀 夫	104-0041	中央区新富1-18-8 RBM 築地スクエア	03-5547-3510
(株)三菱地所設計	03-3287-5750	河合 康 之	100-0005	千代田区丸の内3-2-3 富士ビル	03-3287-3230
(株)緑設計	018-862-4263	◇板垣 清 美	010-0973	秋田市八橋本町4-10-26	018-862-4273
(株)緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢2-6-16	03-3422-9530
(株)森緑地設計事務所	03-3585-8361	藤内 誠 一	106-0044	港区東麻布1-4-3 木内第2ビル	03-3582-2758
(株)UR リンケージ	03-6214-5700	石田 晶	103-0027	中央区日本橋1-5-3 日本橋西川ビル	03-6214-5665
(株)ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇村岡 政 子	136-0071	江東区亀戸6-58-12	03-5626-4740
(株)LAT 環境クリエイト	082-273-2605	青木 成 夫	733-0821	広島市西区庚午北2-1-4	082-271-2230
(株)ランズ計画研究所	045-322-0581	川島 保	220-0004	横浜市西区北幸2-10-27 東武立野ビル	045-322-0719
(株)リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	新井 英 光	540-0038	大阪市中央区内淡路町2-1-7	06-6941-1154
(株)緑景	06-6763-7167	瀬川 勝 之	542-0064	大阪市中央区上汐1-4-6 吉井ビル	06-6765-5599
準会員 (五十音順)					
あい環境設計研究所	090-2855-7533	扇 輝 久	814-0142	福岡市城南区片江1-2-35	092-864-7533
(有)エコシビルデザイン	03-5362-3701	上村 央	160-0016	新宿区信濃町11-3 AK 信濃町ビル	03-5362-3702
(株)エコル	03-5791-2901	庄司 悦 雄	108-0074	港区高輪3-4-1 高輪偕成ビル	03-5791-2902
(株)環境緑地研究所	011-221-4101	村上 恒 久	060-0004	札幌市中央区北4条西6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
(株)現代ランドスケープ	06-6203-1270	西辻 俊 明	541-0047	大阪市中央区淡路町2-1-10 ユニ船場	06-6203-1271
(株)シビテック	011-816-3001	三浦 亨	003-0002	札幌市白石区東札幌2条5-8-1	011-816-2561
(株)セット設計事務所	042-324-0724	和田 淳	185-0012	国分寺市本町2-16-4	042-324-3468
グイシン設計(株)	011-222-2325	関 利 洋	060-0005	札幌市中央区北5条西6-1-23	011-222-9103
(株)塚原緑地研究所	043-279-8005	塚原 道 夫	261-0011	千葉県美浜区真砂3-3-7	043-279-8142
(株)辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻本 智 子	656-2401	淡路市岩屋3000-176	0799-72-0217
(株)都市ランドスケープ	03-5269-8982	内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-6685-8712
(株)都市・景観設計	06-6228-3388	奥村 信 一	541-0041	大阪市中央区北浜1-1-21 第2中井ビル	06-6228-3387
(株)緑住環境計画	042-525-4560	松岡二三夫	190-0022	立川市錦町1-12-10 鈴木ビル	042-525-4561
賛助会員 (五十音順)					
アゴラ造園(株)	03-3997-2108	荻野 淳 司	179-0075	練馬区高松6-2-18	03-3997-2252
荒木窯業(株)	0942-27-3231	福山 茂	830-0063	久留米市荒木町荒木823	0942-27-3234
石黒体育施設(株)	052-757-4030	石黒 和 重	464-0848	名古屋市千種区春岡2-27-18	052-763-8110
(株)ウォーターデザイン	03-3431-8070	山本 誠	105-0004	港区新橋6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業(株)	052-352-1811	内田 裕 郎	454-0825	名古屋市中川区好本町3-67	052-351-1326
H.O.C(株)	0956-48-8101	鎗流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町221-2	0956-48-8111
(株)岡部	0764-41-4651	竹中 祐 利	930-0026	富山市八人町6-2	0764-31-6340
快工房(株)	048-291-7721	時岡 邦 男	333-0816	川口市差間2-14-5	048-291-7725
小岩金網(株)	03-5828-8828	島倉 邦 彦	111-0035	台東区西浅草3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
(株)コトブキ タウンスケープ営業本部	03-5280-5400	一木 誠	101-0062	千代田区神田駿河台1-2-1	03-5280-5768
(株)ザイエンス 営業本部	03-3284-0501	小山 幹 雄	101-0044	千代田区鍛冶町1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
(株)サカエ	0422-47-5981	栗田 嘉 嗣	181-0004	三鷹市新川4-7-19	0422-49-2122
(株)サトミ産業	0258-35-3005	佐藤 勉	940-0864	長岡市川崎5-495	0258-34-2513
(株)三英 景観事業部	04-7153-3141	尾山 弘 善	270-0133	流山市十太夫108-1	04-7153-3146
(株)サンエス	042-564-1021	横倉 登	207-0022	東大和市桜が丘4-322	042-565-7239
西武造園(株)	03-5926-5418	高橋 尚 史	171-0051	豊島区長崎5-1-34 東長崎西武ビル	03-5926-5353
太陽工業(株) 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	鈴木 久 文	153-0043	目黒区東山3-16-19	03-3791-7731
タカオ(株)	0849-55-1275	高尾 典 秀	720-0004	福山市御幸町中津原1787-1	0849-55-2481
(株)中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田 博	488-0022	尾張旭市狩宿新町2-27	0561-53-1000
テック大洋工業(株)	03-5703-1441	小俣 智 裕	144-0052	大田区蒲田4-22-8	03-5703-1444

会 員 名	電話番号	協会代表者	〒	所 在 地	FAX 番号
東亜道路工業(株)	03-3405-1813	田 中 秀 明	106-0032	港区六本木7-3-7	03-3405-4210
トースイ(株)	03-5276-1101	星 野 弘 壽	102-0093	千代田区平河町1-7-7	03-5276-1117
東邦レオ(株)	06-6767-1110	木 田 幸 男	540-0005	大阪市中央区上町1-1-28	06-6767-1263
トーヨーマテラン(株)	0568-88-7080	池 上 英 雄	480-0303	春日井市明知町1512	0568-88-3370
中村シラトリ(株)	0543-35-6271	石 田 勝 若	424-0911	静岡市清水区宮加三660番地	0543-35-6273
(株)中村製作所	047-330-1111	朝 倉 辰 夫	271-0093	松戸市小山510	047-330-1119
(株)ナベシマ	093-617-3039	鍋 島 雅 英	807-1262	北九州市八幡西区野面1101-1	093-617-3040
日都産業(株)	03-3333-0210	結 城 健 治	167-0053	杉並区西荻南1-1-9	03-3333-0631
日本体育施設(株)	03-5337-2616	奥 裕 之	164-0003	中野区東中野3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設(株)	03-3422-5331	竹 内 俊 裕	154-0004	世田谷区太子堂1-4-21	03-3412-8415
花豊造園(株)	075-341-2246	山 田 昌 次	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町518番地	075-361-0961
(株)日比谷アメニス	03-3453-2402	奥 本 寛	108-0073	港区三田4-7-27	03-3453-2417
(株)富士植木	03-3265-6731	成 家 岳	102-0074	千代田区九段南4-1-9	03-3265-3031
(株)丸山製作所	03-3637-4340	丸 山 智 正	136-0071	江東区亀戸7-5-1	03-3683-7553
(株)みぞい	022-255-9770	溝 井 敏 男	983-0821	仙台市宮城野区岩切字畑中5-9	022-255-5546
(株)モクラボ	06-6325-3330	関 根 純 一	533-0033	大阪市東淀川区東中島1-18-4-301号室	06-6325-3331

2014年 登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格認定試験の実施について

登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格制度実施規程に基づく「登録ランドスケープアーキテクト (RLA) 資格認定試験」(以下「RLA 資格認定試験」) を下記のとおり実施します。

1. RLA 資格取得までの流れ



※部分受験(再受験)の方についても同様の流れですが、詳細は事務局にお問合せください

2. 試験実施日時

2014年9月7日(日) 9時00分～19時00分

3. 試験地

東京・大阪・福岡の3地区

※福岡会場は受験希望者数により設置されない場合があります

4. 受験手数料

16,200円(税込み)

5. 申込受付期間

2014年6月1日(日)～7月10日(木)

6. 受験資格

学歴により、以下のいずれかに該当する者。

学 歴	ランドスケープアーキテクチャに関する 必要な業務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大 学 卒 業 者	卒業後3年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	卒業後5年以上の 実務経験を有する者
短期大学卒業者 高等専門学校 (5年制)卒業者	卒業後5年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	卒業後7年以上の 実務経験を有する者
高 校 卒 業 者	卒業後10年以上の 実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	卒業後12年以上の 実務経験を有する者
上 記 以 外 の 者	卒業後15年以上の実務経験を有する者 このうち1年以上の主体的立場での実務経験が含まれていること	

(注) 1 ランドスケープアーキテクチャに関する業務経験とは、ランドスケープアーキテクチャ事業の計画・調査・立案・助言及び設計・監理の業務に従事した業務経験をいいます。
2 ランドスケープ系大学院の課程を修了した場合は、正規課程の年数を業務経験年数として計上することを認めます。
3 指定学科とは、造園、緑地、農学、林学、環境、園芸、都市、地域、土木、建築系等のランドスケープアーキテクチャに関する学科をいいます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

7. 試験の一部免除について

技術士を所有する方は、必要な書類を提出することにより、本資格認定試験の一部免除を受けることができます(詳細は受験の手引をご参照ください)。

8. 申込方法

申込方法は、左図のとおり①ホームページからの申込と②郵便による申込の2つの方法があります。

①はホームページ上に掲載される申込フォームに必要な事項を入力し申込んだ後、事務局より返送される申込用紙に署名、押印した書類を郵便にて提出する方法です。

②は事務局より申込用紙を購入し、必要事項を記入、署名、押印のうえ、郵便にて提出する方法です。

※インターネットが利用できる環境の方は①をお勧めいたします

9. 「申込用紙」の販売

1部650円で4月1日から事務局にて販売します。

申込用紙の郵送をご希望の場合は、事務局までお問合せください。

<編集後記>

本号は、恒例のCLA賞特集及び各支部の活動報告に加えて、直近のCLAにおける幾つかの活動状況報告を加えて、盛り沢山な内容となりました。

CLA賞は近年応募が低調でしたが、今回幾つかの改革を実行し、20点の応募が得られ充実した成果が得られたものと思います。日常の業務を通じて発揮される我々会員の専門職能を、広く社会に発信・アピールするとともに、会員相互の技術研鑽のためにも、全会員の積極的な応募を期待します。

関東支部会員をメンバーとして一昨年から実施している「公園再生プロジェクト研究会」では、2つのテーマで研究活動を実施しているところですが、夏頃には最終成果がまとまる予定ですが、今号ではその検討状況を概要

報告させていただきました。

東日本大震災に関して会員が関わってきたランドスケープに関する業務実績について、昨年会員各位にアンケート調査を実施しました。11社から46件の業務の報告があり、幅広い分野で活躍されている状況が把握できました。今後は設計・施工の段階に移行していくと思われていますが、各会員の奮闘を大いに期待したいと思います。

なお、今年度からRLA資格制度は、新たにRLA補、RLAフェローが設けられるなど大きく改定されました。この点も巻末にご案内いたしました。

本号は、現広報委員会任期中最後の号となりました。今後は、紙面デザインの刷新も検討課題となっています。これからどうぞご期待ください。(M)

2014 No. 175

CLA journal

再生紙を使用しています。

発行日●2014年5月30日

発行人●枝吉茂雄

編集●(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員会

発行所●(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7
近江会館ビル
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268
http://www.cla.or.jp



ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.cla.or.jp>